

平成 2 7 年 度

教育に関する事務の管理及び執行状況
の点検・評価に関する報告書
(平成 2 6 年度対象)



平成 2 7 年 1 1 月

帯 広 市 教 育 委 員 会

目 次

1	点検及び評価の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（１）趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（２）対象・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（３）方法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（４）学識経験者の知見の活用・・・・・・・・	1
2	点検及び評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	（１）次代を担う人づくり・・・・・・・・	3
	（２）ともに学びきずなを育む地域づくり・・・・・・・・	11
	（３）基本目標を実現するための基盤づくり・・・・・・・・	15
3	教育に関する学識経験者の意見・・・・・・・・	25
	参考資料・・・・・・・・	27
	資料1 平成26年度教育委員会の活動状況・・・・・・・・	28
	資料2 平成26年度教育行政執行方針・・・・・・・・	33
	資料3 平成26年度予算決算・・・・・・・・	37
	資料4 平成26年度における主な取組み一覧・・・・・・・・	39
	資料5 成果指標の推移・・・・・・・・	46
	資料6 課題及び今後の方向性に対する平成26年度の取組み・・・	51

1 点検及び評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育の取組みについて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、あわせて市民に公表するものです。

(2) 対象

「帯広市教育基本計画」の体系にしたがい、平成26年度に実施した取組みを対象として、点検及び評価を実施しました。

なお、「帯広市教育基本計画」においては、福祉や子育てなど他の分野と幅広く協力しながら取組みをすすめることとしていることから、教育委員会の取組みに加え、関係部課等の取組みについても、点検及び評価の対象としています。

(3) 方法

点検及び評価は、第六期帯広市総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、「帯広市教育基本計画」の「個別目標」及び「基本方向」ごとに行いました。具体的には、成果指標の達成状況や平成26年度における主な取組み内容などを踏まえながら、平成26年度における取組みの成果と、課題及び今後の方向性の2つの観点から、点検及び評価を行いました。

(4) 学識経験者の知見の活用

学識経験者からの点検及び評価に関する意見や助言をいただき、教育委員会が点検及び評価を行うに当たって客観性を確保するとともに、今後の取組みに向けた活用をはかります。

参考1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

図1 帯広市教育基本計画体系図

基本目標	個別目標	展開方策
1 次代を担う人づくり	1-1 知識・技能の習得	(1) 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 (2) 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 (3) 職業に関する教育・学習活動の推進 (4) 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進
	1-2 豊かな心の育成	(1) 子どもの社会性の育成 (2) 豊かな情操の育成と生きがいづくり
	1-3 健やかな体づくり	(1) 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 (2) 食育の推進と学校給食の充実
	1-4 人間を尊重し自然と共生する人づくり	(1) 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 (2) グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 (3) 環境に関する教育・学習活動の推進
2 とともに学びきずなを育む地域づくり	2-1 ふるさとの理解の促進	(1) 子どものふるさと教育の推進 (2) 地域に関する学習活動の推進
	2-2 きずなづくり・まちづくり	(1) まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 (2) にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興

	基本方向	展開方策
基本目標を実現するための基盤づくり	1 学校・家庭・地域の連携	(1) 開かれた学校づくり (2) 家庭教育への支援 (3) 家庭や地域による教育支援の推進
	2 教育を支える人材の育成	(1) 教員の人間力・指導力の向上 (2) 地域の人材の発掘・育成・活用
	3 教育環境の充実	(1) 学校教育の環境整備 (2) 社会教育の環境整備 (3) 保育・体験活動の環境整備
	4 教育機会の確保	(1) 就学・進学への支援 (2) 健やかな発達の支援
	5 よりよい教育のためのしくみづくり	(1) 魅力ある学校づくりの推進 (2) 学校教育のしくみの工夫改善 (3) 社会教育施設の利用の促進 (4) 地域の実情に応じた教育行政の推進

2 点検及び評価の結果

(1) 次代を担う人づくり

個別目標1－1	知識・技能の習得
市民が生涯にわたり自己を高めるとともに、時代の変化に適応し、自立して生きることができるよう、必要な知識・技能を習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査等で課題を明確にし、基礎学力の定着に向けた授業改善を行ったほか、一斉読書や長期休業中の学習サポートなど地道な取組みを継続してきたことから、標準学力検査の目標基準到達観点数が前年に比べ増えるなど実績値の向上につながりました。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、地域でのコミュニティ講座や百年記念館での陶芸講座などを開催し、幅広く多様な学習機会を提供したため、講座等の参加者数は目標値を上回りました。また、動物園では帯広畜産大学との連携により、学生の自由な発想を発揮できる機会を提供し、魅力を高めました。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高校において、就職希望者に対して意識の高揚をはかる進路指導の実施や企業と緊密な連携を進めていることなどから、就職率100%を達成しました。また、検定の3種目以上1級取得率も、基礎からの指導に取組んだ結果、目標値を大きく上回りました。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、中学校の教育用コンピュータ機器類を更新し、情報活用能力の向上のための教育環境を整備しました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、標準学力検査の目標基準到達観点数が前年に比べ増えているものの、目標値に達しておらず、基礎学力の定着が十分ではないと考えられます。課題分野の把握に基づいた繰り返し学習の徹底、学習習慣の定着など、学校・家庭・地域が一体となった学力向上にむけた取組みの一層の充実を図る必要があります。 (2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、ニーズの多様化やライフスタイルの変化を的確に捉え、多様化している学習要望に幅広く対応することが必要です。そのため、新たなジャンルの魅力ある講座等の開発に取組みます。 (3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高等学校において、引き続き企業ニーズなどを把握しながら、教養ある豊かな産業人の育成に努めます。 (4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、ICTを効果的に活用した教育環境を充実するため、教育用コンピュータ機器類の計画的な更新等を図ります。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26実績値	H31 目標値
		H26目標値	
標準学力検査の目標基準到達観点数（観点）	26	34 37	42
帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数（人）	22,590	36,753 23,000	23,000
帯広南商業高等学校の就職率（％）	100.0	100.0 100.0	100.0
帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率（％）	46.7	81.5 58.5	75.0

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 地域でのコミュニティ講座

帯広市内 26 小学校区ごとにある、生涯学習推進委員会の皆さんが、住みよいコミュニティづくりのため、「地域から発想する生涯学習」を合言葉に、企画・運営している講座です。

子どもから高齢者までを対象に、地域の問題・生活課題など地域に根ざした幅広い学習・交流の機会を提供しています。

平成 26 年度は、240 講座開催し、延べ 22,505 人が受講しました。



各校区でイベント等を開催

◆ 帯広南商業高校でのキャリア教育

帯広南商業高校では、即戦力となる人材を育成するため、商業教育の一環として最新機器の整備に努めながら、仮想商取引等の専門的な授業に取り組んでいます。

また、1 年生の段階から職業観を学ぶため、地域の商業界で活躍する民間人（平成 26 年度は、金融業、サービス業など）を講師として招き、ビジネス基礎講座の授業を行い、日頃の授業では得られない、職業に対する考え方や実務経験等を実際の・体験的に生徒に学習させています。



地域企業の民間人による授業

個別目標1-2	豊かな心の育成
子どもたちが、他の人々と協調しながら、自らを律し、社会においてよりよく生きる力を身につけるとともに、市民が生涯にわたりゆとりやうるおいを実感して生活することができるよう、豊かな心の育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どもの社会性の育成」については、小中学校で教育相談員を、帯広南商業高校でスクールカウンセラーを配置等し、児童生徒の悩み相談等にきめ細かい対応を行ったほか、いじめや非行の未然防止等のため、関係機関と連携をはかり、各種教員研修や児童生徒の「帯広市小中学生いじめ・非行防止サミット」等を開催し、一定の効果をあげることができました。また、子どもの居場所づくり事業は、小学校26校全校で100%実施され、全道平均の32.5%を大きく上回りました。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校において司書教諭や学校図書ボランティアが中心となって行っている読み聞かせや朝読書、学校図書館の土曜開放などにより、読書に興味を持つ児童生徒が増え、学校図書館の児童生徒1人当たりの貸出冊数は目標値を上回りました。また、「帯広市小中学生のための札幌コンサート」を開催するなど、良質な芸術・文化に触れる鑑賞機会を提供し、多くの市民が身近に芸術文化に親しめる環境づくりに取り組みました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どもの社会性の育成」については、小中学校の不登校児童生徒の学校復帰支援のため、教育相談員の配置等を行っていますが、家庭や児童生徒の心の内面の複雑化等、原因の多様化により、学校復帰が図られないケースが多く、不登校生徒の復帰率は目標値を下回り、前年よりも減少しました。不登校児童生徒の復帰に向けて、引き続き相談員の研修の充実、専門性の向上を図り、家庭への支援を充実させるなど、一人ひとりに応じた個別の教育相談体制の強化に努めます。また、子どもの居場所づくり事業では、コーディネーターの担い手不足などにより、事業実施回数が減少したため、参加児童数が減少し、目標値を下回りました。今後は、様々な方法により募集活動を行い、ボランティアスタッフの確保を図るとともに、ボランティアスタッフの中から中核となるコーディネーターの養成にも努めていきます。 (2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、小中学校の学校図書館において、引き続き国の定める標準冊数の達成を目指しながら魅力ある蔵書を整備していくほか、運営に係る担い手の確保や専門性の向上を図るなど、より活用しやすい学校図書館づくりを進めていきます。また、鑑賞事業の入場者数は3年連続増加しているものの目標値には達しておらず、芸術・文化に関する情報が市民に十分に行き届いていないと思われることから、各メディアの活用に加えて、各コミュニティ等を通じた情報発信について検討します。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
不登校生徒の復帰率（％）	30.8	24.0 52.5	65.0
子どもの居場所づくり参加児童数（人）	7,575	22,405 28,200	31,100
小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数（冊）	9.1	16.8 10.4	11.8
中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数（冊）	1.6	3.9 2.0	2.4
鑑賞事業の入場者数（人）	34,098	24,080 38,000	38,000

※貸出冊数は年間の冊数

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 子どもの居場所づくり事業

子どもの居場所づくり事業については、子ども達が安全で安心して過ごすことのできる居場所を作るとともに、工作・料理・季節行事など多様な体験活動を実施しています。

この事業は、市内 26 小学校の全てで実施しており、地域のボランティアの方々が中心となり活動しています。平成 26 年度においては、年間 813 回、延べ 22,405 人の児童が参加し、この事業に携わったボランティア等についても、5,640 人を数え、地域で子ども達を見守り育てていく取組みが進んでいます。



みどりっこクラブ企画「カプラ」

◆ 学校図書ボランティア

各小中学校の学校図書館では、司書教諭をはじめ、学校図書ボランティアが活躍しています。図書の貸し出し、本の整理、破損本の修理などを担い、学校図書館の運営をサポートするほか、読み聞かせ、図書室の飾り付けなど、児童生徒が読書に興味を持ってくれるような工夫を実践しています。

また、市立図書館の司書から本棚の配置、展示の仕方、ポップの作り方などを学ぶ「学校図書館クリニック」を受講してスキルアップを図るなど、ボランティアの育成を通じて児童生徒の読書活動を推進しています。



学校図書館での読み聞かせの様子

個別目標1-3	健やかな体づくり
市民が生涯にわたり心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、健やかな体づくりに取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、明治北海道十勝オーバルでの4年ぶり4回目となるワールドカップスピードスケート競技大会など各種大会やフードバレーとかちマラソン大会の継続、総合型地域スポーツクラブが開催する講座などが順調に実施されたことにより、スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数は目標値を上回りました。また、総合型地域スポーツクラブの設置数は、他のクラブとの情報交換や帯広市スポーツフェスティバルへの参画を促すなどの体制づくりを進めた結果、1か所増え計4か所となりました。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、小中学校において食に関する指導の全体計画を作成し指導を行っているほか、食育検討委員会において作成した「帯広らしい食育プログラム」の小学校配布、「食育レシピ集」の小中学校児童生徒への配布などを行い、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得するための食育を推進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んできました。また、学校給食においては、関係部署との連携から、帯広農業高校のジャガイモ、地元生産者からのマッシュルームなどの地場産野菜の導入に結びつきました。
課題及び今後の方向性	(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、スポーツ少年団登録団員数が微減傾向にあり、運営に苦慮する声があります。今後、団員を増加させるために、学校等を通じて少年団の情報を各家庭に提供していきます。 (2)「食育の推進と学校給食の充実」については、平成25年度「食に関する実態調査」の結果から、全道平均に比べ、起床時間が遅い、1人で食事をしている児童生徒が多い、間食が多いなど、児童生徒の生活リズムや食生活への関心や知識に課題がみられます。そのため、今後も継続して、食育指導専門員と栄養教諭が連携してより多くの学級で給食指導及び食育出前授業を実施し、児童生徒への食に関する指導の一層の充実を図るとともに、食に関する各種資料の活用による家庭への働きかけも進めます。また、学校給食における地場産野菜の導入率は、地場産野菜の生産、収穫が気候の変動に大きく左右され、使用頻度の高い玉ネギ、長ネギの地場産導入量が前年と比べ8割程度となったことから導入率が低下し、目標値を下回りました。引き続き関係部署と連携し、地場産野菜の導入拡大に取り組んでいきます。なお、給食の質については、教育懇談会などで意見が多く寄せられているところであり、平成27年度の新たな学校給食調理場（学校給食センター）の稼働にあわせ、新メニューの導入などに取り組んでいきます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）	35,677	92,135 87,000	87,000
総合型地域スポーツクラブの設置数（か所）	2	4 5	8
学校給食における地場産野菜の導入率（％）	55.7	63.5 68.2	70.0

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が中心となり、自らの負担と発想で地域に密着したスポーツ機会を作っていくスポーツクラブのことであり、帯広市では身近な場所で市民が気軽にスポーツができる環境づくりを推進するため、クラブの設立支援・運営補助を行っています。

平成 26 年度には、帯広畜産大学が中心となって新たに南地区を拠点としたクラブが設立された結果、現在は市内に 4 つのクラブがあります。最終的には市内全地域をカバーするように 8 か所にクラブを設置する予定です。



クラブによる体操教室の様子

◆ 食育の取組み

市内小中学校教諭および食育指導専門員、栄養教諭で「食育検討委員会」を設置し、小中学校および家庭へ向けた「早寝早起き朝ごはん」の啓発資料や「食育レシピ集」を作成し、発行しました。

また、「帯広らしい食育プログラム（小学校版）」を作成し、小学校へ配付するとともに食育指導専門員による出前授業及び給食指導を行いました。8 月には「食育講演会」を開催し、食への関心の向上や規則正しい生活の大切さについて研修を深めました。



食育指導専門員による出前授業

個別目標1-4	人間を尊重し自然と共生する人づくり
誰もが人間として尊重され、共生することができる社会づくりや、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに資するため、市民が必要な知識などを習得することができる教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、ユニバーサルデザイン（UD）に関する講座等への参加者数が、これまでも行っていた認知証サポーター養成講座との合同講座に加え、市民大学講座や児童保育センターでの講座を開催するなど、関係部署と連携し、開催機会の拡大に努めたことから、目標値を上回りました。そのほか、男女共同参画に関する講座の開催や情報誌の発行による意識啓発等を行いました。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、森の交流館・十勝を活動拠点に、国際交流ボランティアと協力しながら、在住外国人や住民のニーズを踏まえた国際交流事業を実施した結果、同事業への参加者数は大きく増加しました。また、小学校外国語活動及び中学校外国語科の指導の充実を図るため、外国語指導講師を全小中学校に派遣し、児童生徒の確かな学力の向上に努めました。帯広南商業高校では、英語指導助手の配置やマディソン市への派遣を行い、生徒が生きた英語に触れることで、国際理解を深めました。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、小中学校等において、社会教育施設等と連携した体験学習などの環境教育の実施に結びつけるため、帯広らしい環境教育プログラム集や市ホームページなどで環境教育に関する情報を発信しました。また、環境にやさしい活動実践校数は、目標値に達しなかったものの平成 26 年度に新たに 2 校認定し、28 校となり、多くの児童生徒に実践をとおして、環境保全に向けた意識の醸成を図ることができました。
課題及び今後の方向性	(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、男女共同参画において、性別による固定的な役割分担意識が残っていることが課題であり、今後も関係団体等と連携して男女平等意識の定着・浸透を図っていきます。 (2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、各小中学校において、児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力を更に伸ばしていくために、外国語指導講師を有効活用していくことが必要となります。エリア・ファミリーを考慮した学校派遣で、小中学校が連携して外国語活動の指導が行えるよう、更なる派遣体制の充実を図ります。また、長期休業中に小学生を対象に行っている「Obihiro サマーイングリッシュ・ウインターイングリッシュ」を引き続き開催し、学力支援を含め、児童に対しての外国語への興味・関心を高めていきます。 (3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、引き続きプログラム集などで環境教育情報を発信し、学校や社会教育施設等が連携した環境教育を推進します。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
UDに関する講座等への参加者数（人）	234 (H17-19 平均)	310 284	370
国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）	8,465 (H17-19 平均)	9,528 8,925	9,350
環境にやさしい活動実践校数（校）	10	28 29	41

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 帯広南商業高校でのグローバル教育

帯広南商業高校では、英語科の教育の一環として、帯広市姉妹都市であるマディソン市から招聘した英語指導助手を配置しているほか、公益財団法人AFS日本協会から２人の外国人留学生を毎年１年間受け入れています。また、帯広市内小学校を対象に、それぞれの学校に生徒が出向き、授業を行う出前講座などに取り組んでいます。

平成２６年度は、帯広小学校、若葉小学校と関西小学校から希望があり、小学生は、英語でゲームをしたり短い会話の発表などをしたり楽しく英語に触れていました。



高校生が小学生に英語授業

◆ 帯広らしい環境教育の取組み

学校や社会教育施設をはじめとした行政などが連携しながら、「人と自然が共生する社会を次代に引き継いでいくための、『できることから実践する人』づくり」を目標に、小・中学生を中心に子どもたちに対して、環境教育を行っています。

市職員が行う出前教室（写真例：「エコバック作り」）や社会教育施設等で行える体験学習などの環境教育に関する情報を「帯広らしい環境教育プログラム集（平成２６年度版：３２プログラム掲載）」や市ホームページなどで発信し、学校や行政などが連携した環境教育の実施を進めています。

そうした環境教育で学んだ子どもたちは、環境にやさしい活動（写真例：環境美化活動）を日々実践しています。



「エコバック作り」の様子



環境美化活動の様子

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

個別目標2-1	ふるさとの理解の促進
市民がふるさとの風土に学び、自己を確立するとともに、ふるさとの誇りや愛着などを高めることができるよう、ふるさとの理解や再発見を促進する教育・学習活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、体験活動を通して児童生徒がふるさとへの理解を深めるため、小学校4年生に「郷土体験学習」を、中学校2年生に「自然体験学習」を、小学校2校で「ふるさと学習」を実施しました。また、百年記念館では、エソリスの暮らしなどを紹介する出前講座「ミニ百年記念館」を実施し、子どもたちが郷土の自然について学ぶ機会を設けました。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、市民大学講座の開催スケジュールの調整に伴い、開講数及び開催日数が前年より減少したことにより、地域について学ぶ講座等への参加者数は前年から減少したものの、地域に根ざした親しみやすいテーマを設けるなど、幅広く多様な講座等を開催したことにより、目標値を達成しています。また、図書館では中城ふみ子賞の実施や郷土資料展示コーナーでの展示によりふるさとに関する市民理解を促進したほか、百年記念館に設置しているアイヌ民族文化情報センター（リウカ）での小中学校への指導用教材の提供などにより、市民のアイヌ民族の歴史・文化に関する理解を深めるための取組みを進めました。
課題及び今後の方向性	(1)「子どものふるさと教育の推進」については、小中学校で行っている体験活動等において、プログラムの見直しや学校独自の取組みを多くするなどの検討を進めます。また、百年記念館では、教材の更新や新たなプログラム作りに取組みます。 (2)「地域に関する学習活動の推進」については、引き続き、市民大学講座や百年記念館の博物館講座、図書館の郷土資料展示コーナーでの展示などを行い地域の歴史や文化を学び、理解を深める機会を提供するほか、新規の受講者を呼び込むため、学習活動のより効果的な周知を幅広い手段により行います。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
地域について学ぶ講座等への参加者数（人）	4,053	5,598	4,000
		4,000	

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 小中学校でのふるさと教育

ふるさと帯広市の環境・自然・農業等に直接触れ、体験的に学ぶ教育プログラムを充実し、郷土と自然を愛する、心豊かな児童生徒の育成を図ることを目的に、平成26年度も、小学校4年生では郷土体験学習を、中学校2年生では自然体験学習を実施しました。

児童生徒は、帯広市の豊かな自然を体験したり、見学したりすることを通じ、ふるさとの素晴らしさを全身で味わいました。



小学校4年生 郷土体験学習
(体験型酪農施設訪問の様子)

◆ アイヌ民族文化情報センター(リウカ)

地域の人びとがアイヌの人びとの伝統的な文化や現状に理解を深めていただくため、平成18年1月、帯広百年記念館内に「リウカ」を開設しました。「リウカ」とは、十勝地方のアイヌ語で「橋」を意味しており、地域の人々とアイヌ文化との橋渡しをしたいという願いから名付けました。

室内には、アイヌ文化に関する本やビデオ、物語や歌などのCDが置いてあり、読んだり、見たり、聞いたりできます。また、出前授業などアイヌ文化に触れる機会をより多く提供できるように取り組みも実施しています。

平成26年11月13日には来室者が10万人に達しました。



リウカでの解説

個別目標2-2	きずなづくり・まちづくり
地域におけるきずなづくりや、市民主体のまちづくりに資するため、まちづくりへの市民参画やまちのにぎわい・交流を促進する学習・文化・スポーツ活動をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年リーダー養成事業において、多くの子どもたちの関心が高まるようプログラムに工夫を加えたほか、小学校からも積極的に参加を呼び掛けたことにより、参加者数は目標値を上回りました。また、図書館で行う「語り手育成講習会」「学校図書館クリニック」などの受講者が、図書館や小学校などで各人の技術を生かした活躍をしており、百年記念館でも、ボランティア養成講座の受講者が、習得した知識・技術をもとに常設展示室での展示解説やロビー展の企画・展示をするなど博物館活動を支援しています。このように、講座等の受講後にボランティア活動への参加が定着していることから、学習成果の活用事例数は、前年に比べ1件増加し、目標値を上回りました。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、おびひろ市民芸術祭の開催や帯広市民バレエ「くるみ割り人形」公演など、市民主体の芸術文化活動を支援し、多くの市民が身近に芸術文化に親しめる環境づくりに取り組みました。市民が日頃の練習・創作の成果を発表する市民芸術祭では、実行委員会との連携により、より広く参加を促したことで、発表・活動の場への参加団体数は、前年に比べ15団体増加し、目標値を大きく上回りました。また、各種スポーツ大会の観客数は日本クラブユースサッカー大会、フードバレーとかちマラソン大会など全国・全道規模の大会の開催により、目標値を上回りました。スポーツ合宿団体数は、明治北海道十勝オーバルのナショナルトレーニングセンター指定に伴うスケート合宿が順調であるほか、東日本大震災により東北地方や北関東地方で合宿を実施できない団体などを、地域を挙げて受け入れに取組んでいることから、目標値を上回りました。
課題及び今後の方向性	(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、青少年育成団体スタッフが高齢化しており、担い手が不足しています。青少年体験活動などの各種事業を今後も継続していくためには、青少年育成団体スタッフの担い手の育成、発掘が課題であるため、活動内容を積極的に市民周知し、学校、PTA、地域などの協力を得ながら人材確保に努め、組織の体制強化を図ります。また、百年記念館など社会教育施設では、講座等の受講後のボランティア活動に繋がるように、ボランティアの専門性を活かした活動の場を今後も提供します。 (2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、芸術文化に関わる活動団体の活動規模を一定程度維持し、活動成果の発表を行うことができるよう、合同練習・発表などの情報交換や情報収集ができる機会について検討します。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
青少年リーダー養成事業参加者数（人）	208	365 235	260
学習成果の活用事例数（件）	1 (H20)	9 5	10
発表・活動の場への参加団体数（団体）	56	87 60	65
各種スポーツ大会の観客数（万人）	16.0	22.8 20.8	20.8
スポーツ合宿団体数（団体）	150 (H20)	214 200	200

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ ボランティア養成講座受講者の活躍

平成 26 年度は 9 人の方が博物館ボランティア養成講座を受講し、十勝の開拓、自然、アイヌ文化、先史時代、農業などについて、一年をかけて学びました。また、現在活動しているボランティアの指導のもと、解説方法などの研修を行いました。

こうした学習の成果は、常設展示室を訪れる小学校などの団体への展示解説や、体験教室での指導、ロビー展の企画・展示などの活動に活かされています。



博物館ボランティアによる展示解説

◆ 市民芸術祭の開催

教育委員会では、市民の主体的な芸術・文化活動を支援しています。平成 26 年度に開催した第 33 回おびひろ市民芸術祭は、帯広市内で活動している文化団体が日頃の成果を発表し、多くの市民が芸術文化を鑑賞する機会を提供することを目的としていました。

5/1～5/27 の期間に市民文化ホール、市民ギャラリー、とかちプラザを会場として 87 団体が参加し、13,521 人の方にステージ・展示・お茶会の 3 部門の催事を楽しんでいただきました。



第 33 回おびひろ市民芸術祭

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

基本方向1	学校・家庭・地域の連携
学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に協力しながら、社会を挙げて教育を充実することができるよう、学校・家庭・地域の連携をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「開かれた学校づくり」については、小中学校において学校評議員制度を十分活用し、学校運営に関して意見を求めたり、行事に招聘するなど、開かれた学校づくりへ向けた一層の充実を図りました。 (2)「家庭教育への支援」については、子育て支援センターで実施している子育て講座の開催回数を増やしたことなどから、子ども1人当りの子育て支援センター等の利用回数は、前年に比べ2.6回増加し、目標値を上回りました。また、家庭教育学級では、親が子どもの健全な成長発達や親自身の成長に役立つ学習を行い、家庭の持つ教育力を高めています。そのほか、動物園の親子教室や百年記念館の親子陶芸教室など、親子での学習機会を提供しました。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、地域住民や教員等で構成する学校支援地域本部が平成25年度より市内全40小中学校で組織され、学校支援ボランティアを活用した学校数は、目標値を上回っています。これは、各学校支援地域本部のコーディネーターが中心となって事業の企画運営を行うとともに、各学校と地域の人材を繋ぎ、地域ぐるみで子どもを育むことの重要性が地域社会全体に理解されてきていることなどによるものと考えています。
課題及び今後の方向性	(1)「開かれた学校づくり」については、新任学校評議員研修会や学校評議員だよりの内容をこれまで以上に充実させ、各学校の評議員の交流や情報交換の機会を設けていきます。なお、研修会は新任だけに限らず、現任の学校評議員の参加を得て開催し、国や道の動向等の情報収集に努めながら適宜情報提供を行っていきます。 (2)「家庭教育への支援」については、子どもの年齢に合わせた子育てのアドバイスなどの情報を配信する子育てメール通信の利用率が前年に比べ2.6ポイント増加したものの、受信規制の解除が迷惑メール受信につながることを懸念し、利用を希望しない保護者が多いことから目標値を下回りました。子育てメールの利便性を理解していただくため、母子健康手帳交付時や赤ちゃん訪問、乳幼児健診時などの機会を利用して周知を図り利用増につなげます。 (3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、学校支援地域本部のコーディネーターやボランティアの人材確保と高齢化等が課題であり、ボランティア同士のつながりを広げながら、各種団体と活動の情報交流を行い、地域の人材発掘や活動内容の充実に取り組んでいきます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数（回）	10.2	17.0 11.3	12.0
子育てメール通信の利用率（％）	23.8 (H20)	40.9 43.5	60.0
学校支援ボランティアを活用した学校数（校）	2	40 20	40

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 学校支援地域本部事業

学校支援地域本部とは、これまでもそれぞれの学校において行われてきた学校を支援するボランティア活動を組織的なものとする事で、より効果的に学校の支援を図ろうとするものです。

事業には大きく４つの柱があり、平成26年度は以下のような活動を行いました。

○教科の学習サポート

例

- ・教材づくりをサポート
- ・水泳、スケート、ミシン等実習を伴う授業のサポート
- ・朝学習、放課後の学習サポート など

○異世代交流の実施

例

- ・茶道や華道を通じて礼儀や作法を指導
- ・農業体験や食の指導の講師
- ・昔のくらしや文化を学ぶ機会 など

○学校・地域連携事業

例

- ・学校行事のサポート
- ・地域との合同行事の実施
- ・登下校中の安全指導 など

○教育環境の整備支援

例

- ・農園や花壇のお世話、整備のサポート
- ・遊具や備品の整備のサポート
- ・校舎周辺の魅力を向上させる作業 など

これらの活動を支えているのが地域のボランティアの方々に、学校とボランティアをつなげているのが、コーディネーターと呼ばれている方です。

現在、常広市にはこの学校支援地域本部が、市内全40校の小中学校に設置され、各本部で様々な活動を行っています。



教科の学習サポート



異世代交流



教育環境の整備支援



学校・地域連携事業

基本方向2	教育を支える人材の育成
専門性や豊かな人間性などを備えた、教育を支える人材を確保するため、教員や地域の指導者などの育成に取り組みます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、教員研修や公開研究会の充実が図られたことで、教職員 1 人当りの研修受講回数は前年に比べ 0.2 回増加し、目標値を上回りました。教員リーダー研修では、教員ミドルリーダー養成として、薬物に関わる講話など喫緊の課題となる内容も取り入れた「21 世紀教師塾」を開催するとともに、長期休業中の研修講座では、研修プログラム検討委員会での検討結果に基づき食育等の講座を行い、教員の資質向上や豊かな人間性や社会性を育みました。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、文化団体において、高齢化により活動を終了した団体がある中、ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数は、新たに活動を開始した団体や、ホームページに紹介していない団体に積極的に PR した結果、目標値を上回りました。また、スピードスケート競技において、長野五輪金メダリストの清水宏保氏がプロジェクトリーダーを務める「ほっとドリームプロジェクト」を実施した結果、明治北海道十勝オーバルの利用促進に加え、競技力の向上や底辺の拡大につながりました。そのほか、とかちプラザでは、地元音楽活動家の活動成果発表の場としてコンサート「虹コン」を開催しており、市民が気軽に音楽に触れることができる機会を提供しました。
課題及び今後の方向性	(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、「21 世紀教師塾」を引き続き開催するなど、教員の研修へのニーズに応え、研修の場を確保するとともに、公開研究会での研鑽を深めることにより、指導力向上を図り、児童生徒に知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む指導がより充実するよう努めていきます。また、クラウド型サーバーシステムの整備により、教育研究所の研究内容や作成教材が各校において効果的に活用することが可能になることから、教員一人ひとりの指導力の向上に努めます。 (2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、地域の指導者の登録者数が前年に比べ 6 人増加したものの、目標値を下回りました。登録制度に関する周知を積極的に行ったことなどが増加の要因と考えますが、一方で既登録者の高齢化による引退も進んでおり、全体として登録指導者数が大きく伸びていない状況にあります。登録されている人材の活用と周知を図るとともに、登録者数の増加に向け、新たな人材発掘に努め、新規登録者増を図ります。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
教職員１人当たりの研修受講回数（回）	2.2	3.1	3.0
		2.6	
地域の指導者の登録者数（人）	138	122	190
		165	
ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数（団体）	260	268	272
		267	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 教員の研修

児童生徒と直接ふれあう教師には、指導技術などの専門的な力量はもちろん、豊かな人間性が求められており、教師自身が内面を見つめたり、視野を広げたりすることができる研修を充実させることが必要と考えています。

このため、長期休業中に、日常の教育実践から離れ、教師としての視野を広げたり、教育技術に関する技能を身に付けたりするため、平成 26 年度は「食育講座」や「パソコン講座」などの研修会を開催し、延べ 601 人の参加がありました。



夏季教員研修「食育講座」

◆ ほっとドリームプロジェクト

ほっとドリームプロジェクトは清水宏保氏をリーダーとしたスピードスケートの競技者育成、底辺拡大、応援体制の充実を目的としたスポーツ振興事業です。

小中高校生を対象とした「スケートキングダム」のほか、初心者や幼児を対象とした各種スケート教室、また、指導者を対象とした「指導者講習会」や小学校の教員を対象とした「教職員向けスケート教室」なども行っています。

平成 26 年度は、延べ 3,038 人の参加がありました。



スケートキングダム（ジュニア）の様子

基本方向3	教育環境の充実
市民が生き生きと学ぶことができるよう、安全・安心で利用しやすく、環境負荷の低減にも配慮した教育環境の整備をすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「学校教育の環境整備」については、学校施設等の整備として、新たな学校給食調理場（学校給食センター）を建設し、供用開始に向けた準備を進めました。また、小中学校校舎の耐震化率は100%となっており、H31 目標値を既に達成しています。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館において、館内の様々な場所で企画展示などを行ってきたほか、動物園においてブリーディングローン（展示・繁殖のための動物の貸借）を活用しライオン、アメリカビーバーを導入するなど展示動物を充実させました。また、百年記念館では、常設展示室のパネルの更新などを行い、市民文化ホールでは舞台照明設備の修繕などを行いました。そのほか、様々な人が安心して利用できる新たな総合体育館建設に向け、基本計画を策定しました。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、児童会館において科学展示室のリニューアルや開館 50 周年記念イベントを行ったことなどから、入館者が増加し目標値を上回りました。行事内容の工夫や多様な体験活動の提供、科学展示品の更新など、青少年を健全に育む環境づくりが順調に進んでいます。
課題及び今後の方向性	(1)「学校教育の環境整備」については、文部科学省より求められている学校施設の長寿命化計画策定に向けて調査・検討を進めていきます。また、これまでどおり継続的な修繕により施設の機能維持を図るとともに、大規模な改修を通じて教育環境の質的な改善及び施設の延命化を図るほか、老朽化が深刻な施設については、改築（建て替え）や長寿命化改修を視野に抜本的な改善がなされるよう検討していきます。 (2)「社会教育の環境整備」については、図書館において市民 1 人当たりの図書等の貸出点数は、比較的貸出冊数が多い幼児・児童の減少などが影響し、目標値を下回りました。今後も新規利用者の開拓や現利用者が 1 冊でも多く借りていただけるよう継続して図書館のPRや多様なジャンルの講座・講演会を開催します。また、社会教育施設の経年劣化や老朽化が進行しています。基盤となる既存の社会教育施設については、市民の学習意欲が年々高まるなか、誰もが安心して快適に利用できることが求められており、施設機能を適切に発揮していくため、計画的な修繕や更新に努めます。そのほか、新たな総合体育館の整備は、PFI 方式による取組みを進めるとともに、動物園では、ブリーディングローンを活用した展示動物の充実と繁殖に引き続き取組みます。 (3)「保育・体験活動の環境整備」については、「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、児童保育センターの整備・耐震化のほか、老朽化した保育所の改築や認定こども園の整備などを進めます。

○ 参考1：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
小・中学校校舎の耐震化率（％）	46.5	100.0	100.0
		74.1	
市民1人当たりの図書等の貸出点数（点）	5.4	5.7	7.0
		6.2	
児童会館の入館者数（万人）	10.9 (H17-19 平均)	14.5	12.0
		11.6	

※貸出点数は年間の点数

○ 参考2：主な取組みの内容

◆ 子どもの見守り活動

市内全小中学校では、通学路などで子どもたちが犯罪や事故に遭わないよう、PTA や地域のボランティアの方々が中心となり、子どもたちの登下校時の見守り活動を行っています。

挨拶や声かけなどもしていただくことで、子どもたちは、安心して学校に通うことができます。

（平成26年度の参加者の声）

学校・保護者・地域の連携で、少しでも安心できる学校生活になるよう取り組んでいます。子どもたちが朝登校する時に笑顔で、挨拶してもらえることが元気の源になっています。



花園安心安全見守り隊

◆ ブリーディングローンを活用した展示動物の充実

「ブリーディングローン」とは、展示の充実や希少動物の繁殖のために動物園同士が互いに動物を貸したり借りたりする制度です。平成26年度には、この制度により盛岡市動物公園から借り入れたアミメキリンに第2子が誕生し、明るい話題を提供しました。また、鳥羽水族館からはアメリカビーバーのメスを借り入れ、現在、繁殖に取り組んでいます。

展示動物の健康管理に最善を尽くすとともに、絶滅の危機にある希少動物を飼育下での繁殖に努めるなど、貴重な命をつなぐことも動物園の重要な役割です。



アメリカビーバーの
ダブ♀とビービー♂

基本方向4	教育機会の確保
家庭の経済状況や障害の有無などに関わらず、安心して教育を受けることができるよう、教育機会の確保に向けた取組みをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「就学・進学への支援」については、川西地区及び清川地区のスクールバスを児童生徒の増加に対応させたほか、経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、就学援助費の支給による支援を行いました。また、高等学校への進学機会の確保のため、私立高校の教材教具の整備補助や授業料の軽減、高等学校等の就学資金貸付などを行うとともに、高等学校の間口を確保するため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に情報収集に努めました。 (2)「健やかな発達の支援」については、小中学校において特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握しつつ、学校や地域の状況、保護者や専門家の意見等を総合的に勘案しながら知的学級の開設など特別支援学級の設置を進めたことから、設置数は前年に比べ3学級増加し、目標値を大きく上回りました。また、特別支援教育補助員の増員や特別支援教育助手、生活介助員（看護師資格を有する者を含む）を引き続き配置し、特別支援教育の充実を図りました。
課題及び今後の方向性	(1)「就学・進学への支援」については、家庭の経済的負担を軽減するため、就学援助費の支給や私立高等学校生徒授業料補助を継続します。また、市内中学校卒業生の市内高校への適正な進学に向けた間口の確保を図るため、引き続き「帯広市高等学校間口対策協議会」を通じた情報収集や陳情活動を行います。 (2)「健やかな発達の支援」については、特別な支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、教育環境に対するニーズも多様化していることから、適切な支援を通じて必要な教育や指導を行うため、多様で柔軟な仕組みや環境の整備など、教育環境の充実に合理的配慮（※）のなかで努めていきます。 ※合理的配慮：障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くこと。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
特別支援学級の設置数（学級）	38	72	59
		59	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ 特別支援教育の充実

「特別支援教育」とは、障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うことです。児童生徒の成長に合った適切な就学を図るため、特別支援教育の専門家で構成された教育支援委員会において、就学先を決定するための教育相談を平成26年度は337件実施しました。

また、特別支援学級については、新たに知的学級を3校、難聴学級を1校、病弱・身体虚弱学級を2校で開設したほか、特別支援教育を充実させる取組みとして、介助が必要な児童生徒のために27人の生活介助員を配置するとともに、発達障害などの学習困難を抱える児童生徒のために52人の特別支援教育補助員を配置しました。



特別支援学級での授業の様子

基本方向5	よりよい教育のためのしくみづくり
地域の実情に応じた、より質の高い、魅力ある教育を推進するため、よりよい教育のためのしくみづくりをすすめます。	

○ 点検及び評価の結果

項 目	内 容
取組みの成果	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、絆を育む学校づくり支援事業において、市内全校から学校の特色を活かした取組みが提案され、地域との連携深化や学力、体力の向上等に効果のある事業を展開してきました。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の推進により、全ての中学校区（14 エリア）において幼保・小・中の学校種間の相互連携を図るエリア会議を開催したほか、幼保小中連携エリア実践交流会などを開催し、取組内容等について交流する場を持ちました。また、「おびひろっ子を育む9年教育プログラム」に関するリーフレットを全町内会に配布し市民に周知しました。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、社会教育施設の総利用者数が百年記念館のロビー催事の開催日数の減少などから前年に比べ減少したものの、図書館、とかちプラザ、動物園の入場者数は前年から増加しており、目標値を上回りました。また、スポーツ施設においても明治北海道十勝オーバルなどの利用が順調に伸びており、目標値を上回りました。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、地域に開かれた教育委員会づくりを進めるため、市内6 か所で教育懇談会を開催し、教育委員会の取組みについて説明するとともに、市民と教育に関して意見交換を行いました。
課題及び今後の方向性	(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、絆を育む学校づくり支援事業が平成26 年度で終了となりましたが、新たな事業である「おびひろっ子学び支援事業」及び「おびひろっ子絆支援事業」において、これまで培ったノウハウを生かしつつ、これまで以上に教育課程との関連や継続性などを考慮しながら、「地域と連携」した特色ある学校の取組みを進めていく必要があります。 (2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、「帯広市エリア・ファミリー構想」の考え方を教職員、地域、保護者まで広く浸透させ、全ての中学校区（14 エリア）で、9 年間を見通した小中連携の実効性のある方策を積み重ねていきます。各エリアにおいて目標などの共通理解を図り、課題解決に向けて協議を深め、実践を進めていきます。 (3)「社会教育施設の利用の促進」については、文化施設の利用者数が前年より増加したものの目標値を下回りました。団体の小規模化の影響によるため、個々の団体の活動規模を一定程度確保するための取組みを検討します。 (4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、地域の実情を教育行政に反映させていくため、引き続き教育懇談会を開催するほか、教育関係団体等との懇談会の開催についても検討していきます。

○ 参考１：成果指標の状況

指 標 名	H19 基準値	H26 実績値	H31 目標値
		H26 目標値	
社会教育施設の総利用者数（万人）	95.2	100.5	95.2
		95.2	
文化施設の利用者数（万人）	54.8	54.3	60.0
		60.0	
スポーツ施設の利用者数（万人）	114.8	136.5	128.6
		128.6	

○ 参考２：主な取組みの内容

◆ おびひろっ子を育む9年教育プログラム

「帯広市教育基本計画」の基本理念に基づき、子どもの未来を見据えた小中学校 9 年間の義務教育において、帯広の自然を生かした様々な学習や体験、食育プログラム等を充実させ、一人ひとりの学びと育ちをつなぐために、学校や家庭、地域が連携した取組みを進めています。

この取組みを広く周知するために、平成 26 年度はリーフレットを作成し、学校関係者・市民に配布しました。



おびひろっ子 9年教育プログラム

◆ 4館連携事業

4 館（百年記念館、図書館、動物園、児童会館）が連携して、魅力ある学習機会などを提供し、施設の利用促進を図るための事業を行っています。

平成 26 年度のイベントの一つとして、2 回目となる「よりどりみどりがおかフェスタ！」を開催しました。上記の 4 館に加え、北海道立帯広美術館、ばんえい振興室、みどりと花のセンターとも連携し、緑ヶ丘公園で楽しく学べるイベントとして、たくさんの親子連れでにぎわいました。



よりどりみどりがおかフェスタ！の様子
（まが玉作り）

3 教育に関する学識経験者の意見

帯広畜産大学学長 長 澤 秀 行

「帯広市教育基本計画」に沿った平成26年度の各種取り組みに関する点検・評価の結果、これまでと同様に多くの指標目標値が達成されており、基本理念に沿って計画は順調に進んでいることがわかります。関係各位のご努力に敬意を表します。

まちづくりの基本は人づくりであるという理念のもとに、地域のさまざまな人たちが連携して、帯広ならではの教育を進めている様子が伺えます。中でも、次代を担う「おびひろっ子」を育むための「9年教育プログラム」は、帯広市教育基本計画の基本理念を実行するもので、小・中学校の一貫したつながりを大切にし、知識や技能の習得に留まらず、豊かな心の醸成と健やかな体づくり、農と食の大切さや動植物の命の尊さを心得た素養を育むものです。

食育の取り組みも、食育検討委員会を設置して、帯広らしいプログラムの作成や食育指導専門員による出前授業、食育講演会など、精力的に取り組んでいます。

環境教育についても、学校や社会教育施設をはじめとした行政などが連携して「人と自然が共生する社会を次代に引き継いでいくための『できることから実践する人』づくり」を目標として、種々の取り組みが進められています。市職員が行う出前講座、社会教育施設等で実施する体験学習、市ホームページによる情報発信など、学校と行政が連携した環境教育は、環境モデル都市である帯広市にとって相応しい取り組みだと思えます。

また、特別支援教育は障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を提供する必要がある、施設設備の充実とともに特別支援教育の専門家や生活介助員の配置など、取り組みが進んでいる様子が見られます。

一方、不登校生徒の復帰率が目標値を大幅に下回っています。家庭の事情や児童生徒の心の問題、社会情勢の変化等々、全国的な課題であることは理解します。すでに、相談員の研修の充実、専門性の向上、家庭への支援策などに取り組んでいるようですが、更に、教育相談体制の充実などに努めていただき、総合的な体制で臨まれることを期待します。

そのためにも、学校支援ボランティア、博物館ボランティア、学校図書ボランティアなどによる地域ぐるみのすばらしい取り組みを大いに情報発信することは、これらの取り組みを更に充実することになると思えます。

今後も、社会環境および自然環境が他のどの地域よりも豊かなこの帯広の地において、その特色を十分に活用し、「ふるさとの風土に学び、人がきらめき、人がつながる、帯広の教育」が推進され、帯広教育基本計画の目標が達成されることを期待します。

平成26年度の点検、評価にあたり、生涯学習、学校支援等、子どもや大人の学びの場に関わる立場から意見を申し述べます。報告書は、前年度の課題、当年度の取組みがわかり易くまとめられ、実績値をみましても、全34指標のうち、23指標が目標を達成（毎年度変動指標を含め）し、最終の平成31年度の目標値を20指標が上回っていて、計画が概ね順調に推進されていることが理解出来ます。

(1)「次代を担う人づくり」の学力向上については、学習指導要領に基づき毎年度同一方式で実施している標準学力検査の結果をみますと、目標基準達成観点数が前年度より増えていますが、目標値には達していません。学力向上は、重要課題であり、各学校の改善プラン、地道な授業改善、家庭への啓発等、学校、家庭、地域が一体となった取組みの一層の充実を期待します。地域において学びの場を提供する「コミュニティ講座」は、地域の人たちが積極的に企画に参加して240講座を開催、22,505人が受講して、生涯学習社会の中で大きな役割を果たしていると言えます。「豊かな心の育成」では、子どもの居場所づくり事業が小学校26校全校で実施され、全道平均を大きく上回って、評価出来ます。また、「小・中学校図書館の児童・生徒1人当たりの貸出冊数」は、最終年度の目標値を超え、市図書館との連携、学校図書館クリニックの実施、司書教諭の配置、学校図書ボランティアの協力等によるものと評価出来ます。「健やかな体づくり」では、食育専門指導員の配置や出前講座、栄養教諭による食育レシピの作成・配布や巡回指導等の取組みが大きな役割を果たしています。一方、スポーツ面では、「総合型地域スポーツクラブ」が帯広畜大を中心に4番目として創設されましたが、クラブそれぞれに中心競技に特色があり、十勝管内のクラブを含め相互交流に積極的で、競技人口の増加、技術向上等が期待されます。このほか、「人間を尊重し自然と共生する人づくり」では、28小・中・高等学校が「環境にやさしい活動実践校」として環境美化活動等を実践しており、他学校での取組みにも期待します。

(2)「ともに学びきずなを育む地域づくり」については、小・中学校における体験的にふるさとを学ぶ教育プログラムの取組みが注目されます。百年記念館の「アイヌ民族文化情報センター(リウカ)」は、2階から1階に移設して充実を図り、スタッフを常駐させたことなどから、来室者が10万人に達し、アイヌ民族の歴史、文化への理解を深めるため施設として評価を高めています。今後は、図書館、百年記念館が連携しての郷土理解への事業展開を期待します。

(3)「基本目標を実現するための基盤づくり」については、地域や家庭が学校を支援する学校支援組織において、人材確保や高齢化等の共通した課題があり、行政面からの積極的な支援が望まれます。「教育環境の充実」では、図書館の貸出点数が多彩な企画、PRに取り組んでいながらも目標値を下回っており、蔵書の充実、館外活動の展開にも期待します。動物園では、動物園同士が動物を貸し借りする「フリーディング」に取組み、鳥羽水族館からアメリカビーバーを借り入れる等展示動物の充実を図ろうとする積極的な姿勢がみられます。「教育機会の確保」では、特別支援学級について、学校間の学級移動、3学級増設等ニーズにあわせた配慮がみられます。「よりよい教育のためのしくみづくり」では、14中学校区で9年間を見通して小・中学校が連携してエリア内の課題に取り組む「エリア・ファミリー構想」の活動が具体化しており、今後に期待します。

以上、意見を述べさせていただきましたが、教育の取組みは、行政はもとより、学校、家庭、地域など、多くの市民協力が不可欠であり、教育委員会では、より積極的で、充実した情報発信につとめ、市民との意識共有を図りつつ、事業推進されることを期待します。

参 考 資 料

○ 平成26年度教育委員会の活動状況

(1) 帯広市教育委員名簿

平成27年3月31日現在

役職	氏名	備考
委員長	田中 厚一	平成19年4月1日就任（平成20年12月22日委員長就任）
委員長職務代理者	市之川敦子	平成19年6月23日就任（平成20年12月22日職務代理者就任）
委員	門屋 充郎	平成20年6月23日就任
委員	伊藤 成昭	平成20年12月21日就任
委員（教育長）	八鍬 祐子	平成22年7月7日就任

(2) 教育委員会会議の開催状況（平成26年度）

期日	番号	案件
第9回 平成26年4月23日	議案第28号 議案第29号 議案第30号 議案第31号 議案第32号 議案第33号 議案第34号 報告第6号 報告第7号 報告第8号 報告第9号 報告第10号 その他	帯広市奨学生選考委員の解職について 帯広市奨学生選考委員の委嘱について 帯広市立高等学校教職員表彰規則の一部改正について 帯広市社会教育委員の委嘱について 帯広百年記念館運営審議会委員の解職について 帯広百年記念館運営審議会委員の委嘱について 帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について 専決処分の報告について 専決処分の報告について 帯広市市民文芸誌編集委員の委嘱について 第三期帯広市子どもの読書活動推進計画について 教職員の処分について (1) 学校給食食物アレルギー対応について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について (4) 全国学力・学習状況調査について
第10回 平成26年5月7日	議案第35号	平成26年度帯広市一般会計補正予算について
第11回 平成26年5月26日	選挙執行(2) 議案第36号 議案第37号 議案第38号 議案第39号 議案第40号 議案第41号 議案第42号 議案第43号 議案第44号 報告第11号 報告第12号 その他	帯広市教育委員会委員長職務代理者の選挙について 平成26年度帯広市教育行政執行方針について 平成26年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市教科用図書選定委員会委員の委嘱について 帯広市教育研究所運営委員会委員の委嘱について 帯広市学校給食共同調理場運営委員会委員の解任について 帯広市学校給食共同調理場運営委員会委員の任命について 帯広百年記念館条例の一部改正について 帯広市動物園条例の一部改正について 帯広市動物園条例施行規則の一部改正について 専決処分の報告について 第6回中城ふみ子賞応募結果について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第12回 平成26年6月30日	議案第45号 議案第46号 議案第47号 議案第48号 議案第49号 報告第13号 報告第14号 報告第15号 報告第16号 報告第17号 その他	帯広市立学校管理規則の一部改正について 帯広市立高等学校教職員の表彰について 帯広市スポーツ推進審議会委員の解任について 帯広市スポーツ推進審議会委員の任命について 教職員の処分内申について 平成26年度絆を育む学校づくり支援事業について 専決処分の報告について 専決処分の報告について とかちプラザ運営審議会委員の解職及び委嘱について 第6回中城ふみ子賞決定について (1) 帯広市教育基本計画の中間点検・見直し方針（案）について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について その他・国立国会図書館のデジタル化について ・ふるさと納税推進事業について

期日	番号	案件
第13回 平成26年7月1日	議案第50号 議案第51号 議案第52号	職員の人事について 帯広百年記念館条例施行規則の一部改正について 帯広市動物園条例施行規則の一部改正について
第14回 平成26年7月2日	議案第53号 議案第54号 議案第55号	職員の人事について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市教育施策推進委員会設置規程の一部改正について
第15回 平成26年7月22日	報告第18号	帯広市新総合体育館建設基本計画（骨子案）について
第16回 平成26年7月29日	議案第56号 その他	帯広市就学指導委員会設置規則の一部改正について (1) 帯広市議会6月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について (4) 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
第17回 平成26年8月5日	議案第57号 議案第58号 議案第59号 その他	小学校用教科用図書の採択について 中学校用教科用図書の採択について 高等学校用教科用図書の採択について 教科用図書の採択に係る情報の公表について
第18回 平成26年8月19日	その他	(1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第19回 平成26年9月2日	報告第19号 報告第20号 その他	第三期帯広市子どもの読書活動推進計画（骨子案）について 帯広市新総合体育館建設基本計画（中間報告案）について (1) 帯広市教育基本計画の中間点検（見直し）について (2) 帯広市立小中学校の適正配置の取り組みについて (3) 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
第20回 平成26年9月16日	議案第60号 議案第61号 議案第62号 報告第21号 報告第22号 その他	平成25年度帯広市一般会計歳入歳出決算認定について 平成26年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市教育支援委員会委員の委嘱について 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について 帯広市市民文芸誌応募結果について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第21回 平成26年9月24日	議案第63号 議案第64号 その他	平成26年度帯広市文化賞及び文化奨励賞の決定について 平成26年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について (1) 平成26年度教育懇談会の開催について (2) 平成26年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
第22回 平成26年10月28日	議案第65号 議案第66号 議案第67号 報告第23号 報告第24号 その他	平成27年度帯広市立高等学校の入学募集について 平成26年度市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定について 教職員の処分内申について ジュニア文芸第5号応募結果について 平成26年度第54回帯広市児童生徒読書感想文コンクールの入選者について (1) 帯広市議会9月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について
第23回 平成26年11月4日	議案第68号 議案第69号 報告第25号 報告第26号 報告第27号 報告第28号	帯広市教育基本計画中間点検結果について 平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 西帯広地区中学校適正配置計画（原案）について 新学校給食調理場の取組みについて 第三期帯広市子どもの読書活動推進計画（原案）について 帯広市新総合体育館建設基本計画（原案）について
第24回 平成26年11月13日	議案第70号 議案第71号 議案第72号 議案第73号 その他	帯広市立学校管理規則の一部改正について 平成26年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市学校給食共同調理場条例の一部改正について 公の施設の指定管理者の指定について（とかちプラザ） (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について
第25回 平成26年12月18日	その他	新学校給食調理場について

期日	番号	案件
第26回 平成26年12月25日	議案第74号 報告第29号 報告第30号 報告第31号 報告第32号 その他	職員の処分について ジュニア文芸第5号の審査結果について 第三期帯広市子どもの読書活動推進計画（原案）に関するパブリックコメントの結果について 帯広市新総合体育館建設基本計画（原案）に関するパブリックコメントの結果について 教職員の処分について (1) 帯広市議会12月定例会の報告について (2) 教育懇談会の概要報告について (3) 西帯広地区中学校適正配置地域説明会の概要報告について (4) 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (5) 今後の事業予定について (6) 寄附受納について
第1回 平成27年1月14日	報告第1号 その他	帯広市新総合体育館建設におけるPFI導入可能性調査結果について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について その他・西帯広地区中学校適正配置地域説明会の概要について
第2回 平成27年1月30日	議案第1号 議案第2号 報告第2号 その他	第三期帯広市子どもの読書活動推進計画について 帯広市新総合体育館建設基本計画について 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について 西帯広地区中学校適正配置地域説明会の開催状況について
第3回 平成27年2月13日	議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 報告第3号 報告第4号 その他	帯広市教育委員会教育長給与等条例の一部改正について 帯広市立学校管理規則の一部改正について 平成26年度帯広市一般会計補正予算について 平成27年度帯広市一般会計予算について 平成27年度帯広市教育行政執行方針について 平成26年度帯広市教育研究実践表彰及び帯広市学校文化活動奨励賞について 帯広市新総合体育館建設におけるPFI導入について (1) 西帯広地区中学校適正配置地域説明会の開催状況について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について
第4回 平成27年2月27日	議案第8号	教員の人事内申について
第5回 平成27年3月23日	議案第9号 議案第10号	職員の人事について 職員の人事について
第6回 平成27年3月26日	議案第11号 議案第12号 議案第13号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 議案第17号 議案第18号 議案第19号 議案第20号 議案第21号 議案第22号 議案第23号 議案第24号 議案第25号 議案第26号 議案第27号 議案第28号 報告第5号 報告第6号 その他	帯広市教育委員会公告式規則の一部改正について 帯広市教育委員会会議規則の一部改正について 帯広市教育委員会傍聴人規則の一部改正について 帯広市教育委員会事務委任等規則の一部改正について 帯広市教育委員会公印規則の一部改正について 帯広市教育委員会教育長職務代理者規則の廃止について 帯広市教育委員会事務決裁規程の一部改正について 帯広市立高等学校通学区域規則の一部改正について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市教育委員会職員職名規則の一部改正について 帯広市教育委員会事務処理規程の一部改正について 帯広市教育委員会教育施策推進委員会設置規程の一部改正について 帯広市学校給食共同調理場条例施行規則の一部改正について 帯広市学校給食共同調理場処務規程の一部改正について 帯広市学校給食共同調理場衛生管理規程の廃止について 教職員の処分内申について 帯広市学校評議員運営規程の一部改正について 帯広市文化賞文化奨励賞規則の一部改正について 帯広市学校教育指導の重点について とかちプラザ運営審議会委員の解職及び委嘱について (1) 通学路の交通安全推進体制の構築及び基本方針の策定について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について
第7回 平成27年3月27日	議案第29号 議案第30号 議案第31号	職員の人事について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市教育委員会職名規則の一部改正について

・教育委員会会議開催回数 25回

議決案件	78件	うち非公開	31件（うち所定の手続き後会議録を公開	21件）
報告案件	33件	うち非公開	14件（うち所定の手続き後会議録を公開	12件）
その他	46件	うち非公開	6件（うち所定の手続き後会議録を公開	6件）

〔参考〕教育委員会会議の非公開について

教育委員会会議は、公開が原則ですが、①個人の権利を侵害するおそれのあるもの、②職員の任免、賞罰、人事等、③附属機関の委員の任免、④議会の議案に係る意見申出、⑤訴訟、不服申立に係るもの、⑥教育行政の公正、円滑な運営に支障が生じるおそれがあるものについては、出席委員の3分の2以上の多数で、公開しないことができます。（帯広市教育委員会会議規則第16条）

（３） 課題研究協議会開催状況（平成26年度）

回数	開催日時	テ ー マ
1	平成26年4月23日	学校給食食物アレルギー対応について
2	平成26年5月26日	平成26年度教育行政執行方針について 平成26年度帯広市一般会計補正予算について 平成26年度小学校教科用図書の採択について
3	平成26年7月8日	新総合体育館基本計画骨子について
4	平成26年7月15日	教科用図書の採択について
5	平成26年8月19日	土曜授業について
6	平成26年9月2日	帯広市立小中学校の適正配置の取り組みについて
7	平成26年9月16日	学校給食食物アレルギー対応について
8	平成26年10月28日	帯広市教育基本計画中間点検報告書（案）について 教育に関する点検・評価報告書（案）について 西帯広地区中学校適正配置実施計画（原案）について 帯広市新総合体育館基本計画（素案）について
9	平成26年12月18日	帯広市新総合体育館PFI導入可能性調査について
10	平成27年1月30日	平成27年度教育行政執行方針について 帯広市いじめ防止基本方針について 帯広市新総合体育館建設におけるPFI導入の可否について

（４） 研修会参加状況（平成26年度）

日時	場所	研修会等	出席者
平成26年8月26日・27日	滝川市	平成26年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	3人
平成26年11月12日	帯広市	平成26年度十勝管内市町村教育委員研修会	3人

2回 延べ6人

(5) 行事等参加状況(平成26年度)

日時	行事名	出席者数
平成26年4月8日	市内小学校入学式	3人
平成26年4月8日	市内中学校入学式	2人
平成26年4月9日	帯広南商業高等学校入学式	5人
平成26年4月18日	平成26年度帯広市教育研究会結成大会	1人
平成26年4月25日	帯広市体育連盟定期総会	2人
平成26年5月31日～ 平成26年6月1日	市内中学校体育祭	9人
平成26年5月31日～ 平成26年6月8日	市内小学校運動会	20人
平成26年6月2日	平成26年度十勝管内教育委員会連絡協議会定例総会	1人
平成26年6月27日	帯広少年院体育祭	1人
平成26年7月29日	帯広少年院生活意見発表会	1人
平成26年8月3日	中城ふみ子賞贈呈式	4人
平成26年9月3日	平成26年度帯広市教育講演会	4人
平成26年9月19日～ 平成26年11月28日	市内小中学校公開研究会等	38人
平成26年9月23日	帯広市功労者表彰式	3人
平成26年10月13日	平成26年度帯広市スポーツ賞・スポーツ奨励賞贈呈式	5人
平成26年10月29日～ 平成26年11月17日	教育懇談会	18人
平成26年11月3日	平成26年度帯広市文化賞・文化奨励賞贈呈式	5人
平成26年11月5日	帯広少年院文化祭	1人
平成26年11月20日	帯広少年院公開研	1人
平成26年11月29日	キッズタウン	1人
平成26年11月30日	市民文藝発刊を祝う会	1人
平成26年12月9日	帯広少年院生活意見発表会	1人
平成27年1月5日	帯広市新年交礼会	2人
平成27年1月11日	帯広市成人の集い	4人
平成27年1月20日	帯広少年院成人式	1人
平成27年1月22日	交流給食会	5人
平成27年2月22日	ジュニア文芸贈呈式	4人
平成27年2月24日	帯広少年院生活意見発表会	1人
平成27年2月23日	平成26年度帯広市教育研究実践表彰及び文化活動奨励賞授賞式	2人
平成27年2月24日	平成26年度帯広市教育研究実践表彰及び文化活動奨励賞授賞式	3人
平成27年2月25日	十勝管内教育委員会連絡協議会役員会	1人
平成27年3月1日	帯広南商業高等学校卒業式	4人
平成27年3月13日	市内中学校卒業式	2人
平成27年3月24日	市内小学校卒業式	4人
平成27年3月31日	教職員辞令交付式	5人

延べ165人

○ 平成26年度教育行政執行方針

1. 基本的な考え方

今日、我が国では、少子高齢化や高度情報化、グローバル化などを背景にして、教育を取り巻く社会情勢についても大きく変化している中で、人間関係の希薄化や規範意識の低下、安全安心の確保、学力・学習意欲・体力・運動能力の低下、いじめ問題の深刻化などさまざまな課題が指摘されており、国や北海道においては、教育環境の充実に向けた取り組みがすすめられています。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受け、スポーツのみならず芸術や文化においても、日本を見直し、自信と自覚を持って、世界に発信していこうという気運が高まっています。

こうした中であって、帯広市の教育については、個々の課題に適切に対応するとともに、子どもから高齢者までの人の成長を見すえながら、関係機関や学校・家庭・地域など、社会を挙げて教育に取り組むことが重要になります。

また、新しい時代を切り拓くために一人ひとりが社会的に自立し「生きる力」を育むこと、互いに認め合い支えあいながら生まれ育ったふるさとを愛し、地域社会はもとより国際社会において力を発揮できる人材を育むことが重要です。

そのため、帯広市教育基本計画（平成22年3月策定）の基本理念として掲げている「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」の実現をめざし、帯広らしい教育をすすめます。

2. 取組みの方向性

帯広市教育基本計画の基本理念を実現するために、「次代を担う人づくり」「ともに学びきずなを育む地域づくり」の二つの基本目標と「基本目標を実現するための基盤づくり」を掲げています。

第一に、「次代を担う人づくり」については、知・徳・体の調和のとれた自立した人づくりのために、学校と家庭が両輪となり、義務教育9年間を見すえ、「生きる力」の基盤となる基礎的・基本的な確かな学力、豊かな心や社会性、健やかな体などを育む教育を推進していくほか、世代を超え、生涯にわたる多様な学習機会の充実や文化・スポーツに親しむ機会の提供に取り組めます。

また、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちに食に関する正しい知識や食習慣を身につけさせるとともに、地域の特性を生かした、安全安心で、栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を提供するほか、人間を尊重し自然と共生する社会づくりのため、恵まれた自然を生かした学習活動などをすすめます。

第二に、「ともに学びきずなを育む地域づくり」については、学びを通じた協働の地域づくりをすすめるために、ふるさと・地域に関する学習活動の充実に取り組むほか、学習成果を活用したボランティア活動を支援します。

また、文化活動の多様な発表機会の提供やスポーツ大会などを通じた活力ある地域づくりに取り組むとともに、国内外のさまざまな芸術・文化にふれる機会の提供や、多くの一流選手が集う大会などを誘致し、にぎわいやうるおいを創造します。

第三に、「基本目標を実現するための基盤づくり」については、学校・家庭・地域のさらなる連携に向けた取り組みや学校を中心に地域総ぐるみで子どもを育む環境づくり、教員の人間力・指導力の向上、地域での学びの場における担い手やスポーツ指導者の育成をすすめるなど、地域全体の教育力の向上をはかります。

また、安全安心で人に優しい教育環境づくりとして、学校施設の改修をはじめ特別支援教育の充実や、新たな学校給食調理場の整備をすすめるなど、良好な教育環境の確保に取り組めます。

さらに、スポーツ振興の拠点となる新たな総合体育館の建設に向けた取り組みをすすめます。

3. 主な取り組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

学力・知能検査の実施により学力の実態を把握し、今後の指導に役立てていくほか、中学校の教育用コンピュータの更新により、より効果的な情報教育を推進します。

コミュニティ講座や創造活動センター講座などの学習機会を引き続き提供していくほか、動物園を中心として帯広畜産大学との連携事業を継続します。

② 豊かな心の育成

小中学校及び南商業高校における生徒指導アドバイザーによる相談・支援体制の充実や関係機関との連携により、いじめ・不登校・非行の未然防止や早期発見、対応に取り組むほか、蔵書の充実など学校図書館の活性化をはかります。

市民が気軽に芸術・文化にふれる機会の提供として、「小中学生のための札幌コンサート」の開催、さらに、百年記念館において伝統工芸展「巧みの技・よみがえる浮世絵」を開催します。

③ 健やかな体づくり

学校施設の開放や地域住民が運営する「総合型地域スポーツクラブ」を通じて、スポー

ツへの参加機会の充実をはかるほか、3回目となる「フードバレーとかちマラソン大会」の開催など、子どもから大人まで、体力づくりに取り組む活動を支援します。

地域ぐるみで、地元産食材を活用した、おいしく魅力ある学校給食を提供するとともに、学校において地域の食材や生産者とも関連つけた帯広らしい食育をすすめ、子どもたちの心身の健全な育成をはかります。

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

関係部課等と連携し、さまざまな機会を通じて、人権や福祉、男女共同参画に関する情報提供や意識啓発をはかるほか、体験学習などによる自然環境に関する教育・学習活動を推進するとともに、グローバル化に対応した人材を育成するため、小中学校に引き続き講師を派遣し、小学校の外国語活動や中学校の外国語教育の指導の充実をはかります。

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

郷土の自然や産業などにふれる体験学習を実施するほか、アイヌ民族についての理解を促す教材や資料の作成をすすめます。

ふるさとのに関する市民理解を促進するため、市民大学講座や中城ふみ子賞の実施、百年記念館企画展の開催など、地域の歴史や文化を学び、理解を深める機会を提供します。

② きずなづくり・まちづくり

市民が日頃の練習・創作の成果を発表する市民芸術祭の開催や、「第3回帯広市民バレエ」公演を開催します。

また、日本クラブユースサッカー選手権大会の開催の継続支援やスケート国際大会等の実施など、スポーツを通じた交流をすすめます。

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

学校・家庭・地域の連携による学校への教育支援を一層推進するため、「学校支援地域本部事業」を引き続き市内全小中学校で実施します。

家庭教育を支援する観点から、図書館での子どもの発達段階に応じた情報提供、百年記念館や動物園での親子での学習機会の提供などに引き続き取り組みます。

② 教育を支える人材の育成

教員による研究を支援し、教員ミドルリーダー養成として、「21世紀教師塾」を引き続き開催します。

地域の指導者の登録者数の増加に向けた取組みを強化するほか、ホームページなどで指

導者に関する情報を提供します。

③ 教育環境の充実

学校施設におけるトイレの洋式化及び帯広第八中学校のトイレの大規模改修、帯広第四中学校の温水ボイラー改修工事など、施設の延命化と機能面の向上をはかるほか、平成27年度供用開始する新たな学校給食調理場の整備及び稼動準備をすすめます。また、見守り活動による通学時の安全確保をはかります。

社会教育施設の適正な維持管理に努めるとともに、動物園にアメリカビーバーを導入します。

また、様々な人が安心して利用できる、新たな総合体育館建設に向けた基本計画を策定します。

④ 教育機会の確保

川西地区のスクールバスにおいて、児童生徒の増加に対応するほか、知的学級、難聴学級及び身体虚弱学級の新設、また特別支援教育補助員の増員や、特別支援教育助手、生活介助員の引き続きの配置など、特別支援教育の充実をはかります。

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

学校の主体性を高め、人と人との繋がりを一層深める「絆を育む学校づくり支援事業」を実施するほか、エリアファミリー構想の取組みにより、幼保小中連携を推進します。

小中学校の適正配置計画に基づき、適正な学校規模の維持や良好な教育環境を確保するための取組みをすすめます。

図書館、百年記念館、動物園、児童会館において、共通テーマに基づく「四館連携事業」を引き続き実施するなど、社会教育施設の利用を促進します。

開かれた教育委員会づくりをすすめるため、教育懇談会の開催をはじめ、教育行政に関する情報提供の充実をはかります。

○ 平成26年度予算決算

単位 (円)

科 目	最終予算額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
教育費	7,971,856,000	7,791,765,157	27,407,000	
教育総務費	210,159,000	195,054,516	3,954,000	
教育委員会費	5,223,000	5,221,420	0	教育委員報酬及び会議等の出席に係る旅費等
事務局費	97,970,000	89,189,614	0	事務局運営費、教職員管理費、奨学金貸付事業等
指導研修費	84,791,000	79,144,530	3,954,000	教育相談員・学校評議員・外国人講師に係る報酬等
教育研究所費	20,361,000	19,770,916	0	所員報酬、教育研究所運営費等
教職員住宅費	1,814,000	1,728,036	0	教職員住宅の修理費、教職員住宅の改築・取壊し設計委託料等
小学校費	1,163,195,000	1,112,777,719	0	
学校管理費	759,762,000	727,820,314	0	小学校管理費、プール・リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	43,560,000	42,965,303	0	学校営繕費
教育振興費	257,123,000	240,761,080	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	102,750,000	101,231,022	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
中学校費	638,852,000	605,486,564	0	
学校管理費	285,355,000	269,743,389	0	中学校管理費、リンク造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等
学校営繕費	26,133,000	25,912,882	0	学校営繕費
教育振興費	204,841,000	190,554,001	0	教材教具購入費、就学援助費、学校図書資料整備費、教育用コンピュータ管理費等
施設整備費	122,523,000	119,276,292	0	学校・学習環境整備費、リニューアル改修事業費
高等学校費	109,471,000	83,028,659	22,953,000	
学校管理費	59,932,000	56,980,561	0	南商管理費、学校保健事業費、外国人英語指導助手報酬等
学校営繕費	2,655,000	2,645,321	0	南商営繕費
教育振興費	46,884,000	23,402,777	22,953,000	教材教具購入費、学習環境管理費、キャリア教育推進費

単位（円）

科	目	最終予算額	決算額	翌年度繰越額	主な内容
	社会教育費	856,551,000	842,254,180	0	
	社会教育総務費	12,119,000	11,534,689	0	生涯学習指導員、社会教育委員等報酬、講座開催経費等
	文化振興費	21,832,678	21,764,215	0	文化団体等補助金、事業開催負担金、文化財経費等
	とかちプラザ費	187,586,000	182,584,227	0	とかちプラザ管理費
	市民文化ホール費	184,007,322	183,662,116	0	市民文化ホール管理運営費、機器類リース料等
	百年記念館費	77,212,000	74,588,978	0	百年記念館管理運営費、学芸調査員等報酬、講座開催経費等
	図書館費	200,320,000	198,164,358	0	図書館管理運営費、図書資料等整備費、郷土資料関連経費等
	動物園費	145,700,000	142,927,613	0	動物園管理運営費、遊具管理費、施設修繕等
	市民ギャラリー費	27,774,000	27,027,984	0	市民ギャラリー管理費
	保健体育費	4,993,628,000	4,953,163,519	500,000	
	保健体育総務費	87,505,000	85,667,526	0	スポーツ行事・活動関係経費、団体育成・大会開催費、学校開放経費、指導者育成経費等
	体育施設費	950,859,000	947,471,330	0	社会体育施設管理運営費、施設修繕・改修費等
	学校給食共同調理場費	3,955,264,000	3,920,024,663	500,000	学校給食共同調理場管理費、賄材料費、委託料、学校給食食育推進費、新学校給食調理場建設費等

※翌年度繰越額は、継続費及び繰越明許費

○ 平成26年度における主な取組み一覧

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	全国学力・学習状況調査、CRT 標準学力検査、絆を育む学校づくり支援事業、外国人講師派遣の小中学校派遣、教育課程検討委員会、学力向上推進班（学力向上推進プロジェクトチーム含む）学級経営・授業改善ワンポイント講座開催（2 回 のべ 89 人参加）、データベース教材（全国学力・学習状況調査に対応した小学校算数）作成、南商での外国人英語指導助手配置人数（1 人）、ぶっくーる便（423 件、14,805 冊）、パスファインダー（全 53 種類のうち 12 種類を改訂）、ジュニア文芸誌第 5 号（応募者 269 人、294 作品）、調べてみよう動物のこと（21 人）、むしむしサイエンス事業（19 人）、小説・童話教室（2 人）短歌・俳句教室（8 人）、読書感想文教室（19 人）、小学生の 1 日飼育体験（5 回、53 人）、動物園の親子教室（2 回、28 人）、幼児・児童動物画写生コンクール（220 人）
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進連携	コミュニティ講座（22,505 人）、生涯学習情報誌の発行（月間行事予定表～月 1 回、情報誌「まなびや」成人向け 2 回、小学生向け 2 回）、自然観察会（27 人）、郷土学習見学会（62 人）、博物館講座（741 人）、連続講座（51 人）、地質講座（150 人）、体験教室（343 人）、企画展（11,291 人）、収蔵作品展（1,431 人）、レファレンス、地域防災訓練の実施（啓西小、600 人）、冬季防災訓練の実施（つつじが丘小、200 人）、防災セミナー in とかち 2014 の開催（244 人）、防災グッズ展の開催（698 人）、学校での避難訓練（全小中学校）、防災リーダー研修会の開催（91 人）、自主防災組織研修会講師派遣事業の実施（11 団体、617 人）、市民防災フェスティバル参加者数（約 5,300 人）、防犯グッズ展、防犯講話（26 団体 692 人）、交通安全教室（363 回、35,080 人）、消費者講座・講演会（8 回、467 人）、地域消費者講座（28 回、1,425 人）、消費者被害予防教育講座（18 回、1,430 人）、みんなの消費生活展（1,994 人）、防災出前講座（56 団体、2,210 人）、親子防災講座（12 団体、1,888 人）
職業に関する教育・学習活動の推進	おびひろキッズタウン 2014（21 企業等、児童 345 人）、南商インターンシップ事業等協力事業者数（47 事業者）

高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	教育用パソコン（1,505 台）の活用、教育用コンピュータ機器の更新、帯広市ネット非行対策連絡会議、携帯電話販売店の立入調査、ネット非行連絡会議講演会
----------------------	---

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どもの社会性の育成	郷土体験学習（小学 4 年生対象）、自然体験学習（中学 2 年生対象）、適応指導教室の開設、生徒指導アドバイザーの派遣、教育相談員の配置、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置、こころの教室相談員（6 人）・家庭訪問相談員（5 人）・スクールソーシャルワーカー（2 人）の配置、南商におけるボランティア活動クラブ数（32 クラブ）、放課後子ども広場の実施（26 校、延べ 813 回、延べ 22,405 人）、中学生からのメッセージ事業、大人の集い（1,129 人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（284 人）、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」（40 人）、ジュニアリーダー”あるふあ”の会（13 人）、子ども王国の開催、十勝子ども雪合戦（45 チーム、269 人）、児童会館での体験活動（文化関連事業 2,742 人、宿泊学習等 4,028 人）、青少年センター事業（巡回指導、声かけ指導、ヤングテレホン相談等）、子ども親善訪問団相互派遣事業（徳島市、松崎町）
豊かな情操の育成と生きがいづくり	学校図書館の図書資料の整備・充実（10,155 冊）、司書教諭の配置（27 校に 27 人）、図書館・学校連携事業（ぶっくーる便 423 件・14,805 冊、学校図書館クリニック 1 校）、コミュニティ講座、高齢者学級、生き生きふれあい祭（わかば会）の実施、第 33 回おびひろ市民芸術祭（入場者数 13,521 人）、ウィーン少年合唱団（833 人）、マタニティ・コンサート（15 人）、4×4SEXTET（350 人）、西本智実&ロイヤルチェンバーオーケストラ（1,025 人）、タカトシ寄席 in おびひろ（1,355 人）、牛田智大ピアノリサイタル（748 人）、オペラ・ワークショップ（40 人）、第 3 回帯広市民バレエ「くるみ割り人形」（1,234 人）、第 26 回親と子のわくわく音楽会（835 人）、幼児向けプチコンサート（108 人）、帯広市小中学生のための札幌コンサート（2,444 人）、ディズニー・ライブ！「ミッキーのザ・マジックショー」（4,084 人）、かかし座「ハンド・シャドウズ・アニマーレ」（551 人）、帯広美術館特別企画展（27,376 人）、帯広市民ギャラリーアート展「おびひろ現代アート 2015」（1,348 人）、帯広市文化賞（2 個人）、市民文藝第 54 号（応募者数 100 人、1,285 作品）、ジュニア文芸誌第 5 号（応募者 269 人、294 作品）、語り手育成講習会（3 講座、4 回、140 人）、学校図書館クリニック（1 校、東小）、劇団四季鑑賞事業「ふたりのロッテ」（1,463 人）

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	帯広市体力・運動能力調査、スポーツ教室・講習会の開催数（158 回）、スポーツ・レクリエーションの事業数（3 事業）、総合型地域スポーツクラブの数（4 団体、準備団体 1 団体）、スポーツ少年団登録数（84 団体、1,968 人）、クロスカントリー大会開催
食育の推進と学校給食の充実	食育検討委員会の設置、食育レシピ集の作成・配布、食育講演会（1 回）、栄養教諭等による給食指導・教科指導、調理員による給食時間の学校訪問、9月～11 月の各月・3 コース各 1 日を「ふるさとの日」給食として実施、食育指導専門員の配置（1 人）、農業技術センター展示ほ場見学受入（946 人）、酪農教育ファームでの自然体験学習（84 人）、帯広の森サラダ館学童農園（27 団体、2,240 人）、食育フェスティバル開催、食育推進サポーター講座（64 人）、食育推進サポーター登録（団体・個人 21）、保育所での食育講座（10 所、168 人）、保育所給食試食会（1,421 人）、こどもクッキング（62 回）

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	児童虐待防止推進月間パネル展、児童虐待防止啓発リーフレットを作成、男女共同参画セミナー（1 回、83 人）、女と男の一行詩作品募集・展示（1,038 作品、484 人）、男女共同参画情報誌の発行（年 2 回、各 3,000 部）、男女共同参画講座（4 回、124 人）、社会参画支援講座（2 回、114 人）、デートDV予防講座（3 回、1,009 人）、UD 講座の開催（7 回、310 人）、児童虐待防止ハンドブックを作成、児童虐待防止啓発広告を掲載
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	小学校・中学校に外国人講師派遣、長期休業中に学校の希望に応じて外国人講師派遣、「Obihiro サマーイングリッシュ・ウィンターイングリッシュ」の開催、南商での外国人英語指導助手配置人数（1 人）、マディソン市派遣（生徒 5 人、引率教員 1 人）、高校生相互派遣（米国スワード市 4 人派遣、1 人受入）、市民交流団体の国際交流活動への支援（2 団体）
環境に関する教育・学習活動の推進	帯広らしい環境教育プログラム集の発行・配布、帯広らしい環境教育ホームページによる情報発信、児童会館科学展示室入場者（30,218 人）、プラネタリウム入場者（12,484 人）、児童会館での科学教室・工作教室等（134 回、4,631 人）、出前環境教室の実施（54 件、1,605 人）、環境にやさしい活動実践校認定校（全 28 校、小 13 校・中 14 校・高 1 校）、ごみ懇談会・エコエコ紙芝居・環境学習支援事業（合計 32 回）、

	中高生の1日飼育係(2回、4人)、大人の1日飼育係(3回、11人)、動物園の親子教室(2回、28人)、夜の裏側探検隊(2回、60人)、冬の裏側探検隊(1回、25人)、スポットガイド(随時)、ふれあい教室(73組、2,689人)、よるの動物園(3日、6,316人)、秋の裏側探検隊(1日、55人)、春の裏側探検隊(1日、49人)
--	--

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展 開 方 策	主 な 取 組 み
子どものふるさと教育の推進	郷土体験学習(小学4年生対象)、自然体験学習(中学2年生対象)、アイヌ民族文化理解促進指導用教材作成
地域に関する学習活動の推進	地域の学習情報・指導者情報のホームページでの提供、市民大学講座(受講者2,942人)、コミュニティ講座(460人)、高齢者学級(459人)、生涯学習情報誌の発行、「リウカ」の活動、埋蔵文化財センターの活動、ふるさと再訪事業(30人)

② きずなづくり・まちづくり

展 開 方 策	主 な 取 組 み
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	中学生からのメッセージ事業、成人の集い(1,129人)、地域子ども会リーダー宿泊研修会(284人)、ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」(40人)、ジュニアリーダー「あるふあの会」(13人)、南商におけるボランティア活動クラブ数(32クラブ)、市民大学講座(受講者2,942人)、コミュニティ講座(460人)、生涯学習情報誌の発行、生涯学習コーディネーターの支援、語り手育成講習会(3講座、4回、140人)、初歩から始める読み解き講座(受講者108人)、百年記念館の常設展示解説(19回)、「レコードコンサート」の開催(5回)
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	第33回おびひろ市民芸術祭(入場者数13,521人)、明治オーバル利用大会開催数(42大会)、日韓競技大会開催種目数(3種目)、スケートキングダム開催回数(5回)、プロスポーツ大会(9回)、緊急合宿誘致事業(5団体)、スポーツ合宿誘致団体数(214団体)、フードバレーとかちマラソン大会開催(3回目)、日本クラブユースサッカー選手権大会4年連続開催

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	主 な 取 組 み
開かれた学校づくり	公開研究会、地域公開参観、学校図書館開放事業、地域開放学校数（29校）、学校評議員設置（全小中学校 195 人）、新任学校評議員研修会の実施、学校評議員だより発行（年 2 回）、南商学校開放講座（30 人）
家庭教育への支援	地域子育て支援センター（6 か所、延べ相談件数 5,638 件、延べ利用者数 33,391 人）、子育てメール通信登録（1,684 件）、子育て応援ボランティア（15 団体、111 人）、子育て講座の開催（8 か所、219 回）、子育て応援事業所（223 事業所）、家庭教育学級（11 学級、155 人）、ファミリーサポートセンター事業（308 人、活動 185 件）、子育てガイドブックの発行（2,200 冊）、発達支援ガイドブック「あくせす」の発行（400 冊）、生活支援ファイル「つなぐっと」の配付（322 冊）、あそびの広場参加者数等（202 回、1,223 組、2,682 人）、サンデーファミリー事業（12 回、305 組、685 人）、こんにちは赤ちゃん訪問（568 回）、小中学生の保育体験・保育ボランティアでの交流（26 所（園））、高校生と幼児の交流・保育ボランティアとの交流（16 所（園））、町内会・老人クラブとの交流（117 回）、図書館の「絵本との出会い事業」（12 回）、おはなし会（106 回、3,244 人）、夏休み親子陶芸教室（3 回）、冬休み親子陶芸教室（2 回）、親子七宝教室（1 回）、動物園の親子教室（2 回、28 人）
家庭や地域による教育支援の推進	学校支援地域本部の設置（全小中学校 40 校）、子どもの見守り活動実施校（全小中学校 40 校）、子ども 110 番の家設置登録件数（1,177 件）、放課後子ども広場の実施（26 校、延べ 813 回、延べ 22,405 人）

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	主 な 取 組 み
教員の人間力・指導力の向上	学校指導訪問での指導・助言、教員リーダー育成講座（4 回）、中央教育課題思潮等調査研究事業（3 人）、パソコン研修講座参加人数（468 人）、研究紀要「帯広の子どもの学力」発行、全道教科担当指導主事研究協議会、教育課程検討委員会、帯広市教育研究会事業補助、公開研究会実践校
地域人材の発掘・育成・活用	地域の指導者の登録者数（122 人）、北の構図展（917 人）、帯広市文化賞（2 個人）、スポーツ指導者の講習会・研修会開催数（5 回）、競技

	力育成選手強化事業参加団体数（19 団体）、少年団指導者認定講習会の開催数（2 回）、スポーツ大会派遣補助（211 件、914 人）、体育連盟加入団体（43 団体、44,311 人）、ほっとドリームプロジェクト（競技者の育成事業 5 回、底辺の拡大事業 8 回）
--	---

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	主 な 取 組 み
学校教育の環境整備	学校リニューアル改修事業（小学校 4 校、中学校 2 校）、外構工事（小学校 1 校）、新たな学校給食調理場（学校給食センター）の建設・平成 27 年 4 月供用開始に向けた準備、「帯広市子供安全ネットワーク」の運用と改善
社会教育の環境整備	とかちプラザ館内各機器修繕・更新及び備品修理、百年記念館屋外照明改修工事、動物園給水管更新の設計・工事、プリーディングローンによるアメリカビーバー、ライオンの導入、新総合体育館建設に向けた基本計画・PFI 導入可能性調査、アイスアリーナ冷凍機修繕
保育・体験活動の環境整備	青葉児童保育センター改築工事、清川児童保育センター改築工事、大空児童保育センター移転改修工事、ことぶき保育所外壁・屋根等修繕工事、児童会館科学展示室のリニューアルオープン

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	主 な 取 組 み
就学・進学への支援	就学援助認定者数（小 1,880 人、中 1,124 人）、私立高等学校生徒授業料補助（224 人）、奨学資金貸付者数（大学生 61 人、専門学校生 7 人、高校生 3 人）、幼稚園就園奨励費の支給（1,826 人）、帯広市高等学校間口対策協議会の開催（1 回）
健やかな発達への支援	就学に関する教育相談の実施（337 件）、特別支援教育助手配置（10 人）、特別支援教育補助員配置（52 人）、生活介助員配置（27 人）、特別支援学級の開設等（知的学級 3 校新設、難聴学級 1 校新設、病弱・身体虚弱学級 2 校新設）、障害者高等教育補助（98 人）、障害児保育（26 所）

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

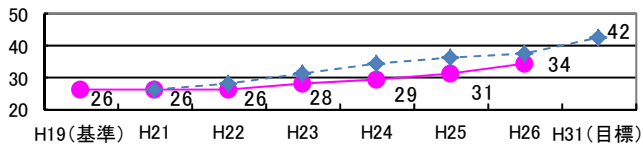
展 開 方 策	主 な 取 組 み
魅力ある学校づくりの推進	「絆を育む学校づくり支援事業」（人との絆 28 校採択、ふるさととの絆 30 校採択）

学校教育のしくみの工夫改善	帯広市幼保小中連携推進委員会の設置、帯広市エリア・ファミリー構想の推進（市内全 14 エリアで協議の場を設置）、幼保小中連携エリア実践交流会（58 人参加）
社会教育施設の利用の促進	社会教育施設連携アクションプログラムの充実（「よりどりみどりがおかフェスタ！」）、スポーツ活動に関するホームページでの情報提供（16 項目）
地域の実情に応じた教育行政の推進	教育懇談会（6 か所、104 人）、教育懇談会の実施概要及び教育委員会会議の会議録のホームページでの公開

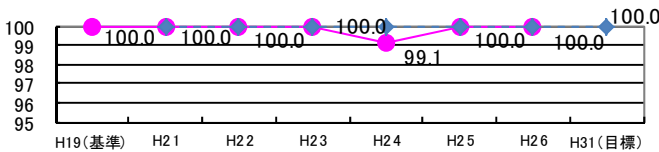
○ 成果指標の推移

※実線は実績値。点線は目標値。

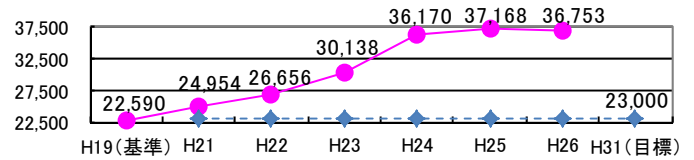
① 個別目標 1－1：知識・技能の習得



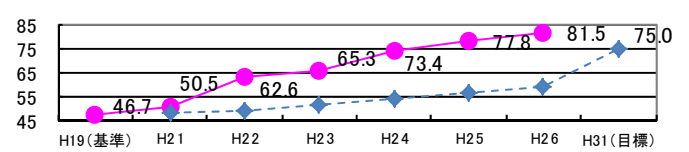
参考図1. 標準学力検査の目標基準到達観点数 (観点)



参考図3. 帯広南商業高等学校の就職率 (%)

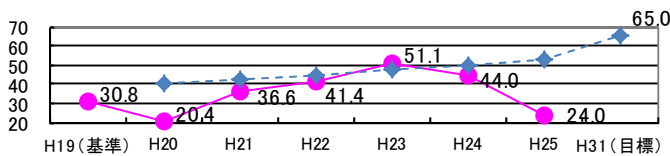


参考図2. 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数 (人)

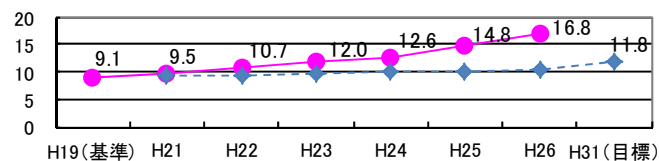


参考図4. 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率 (%)

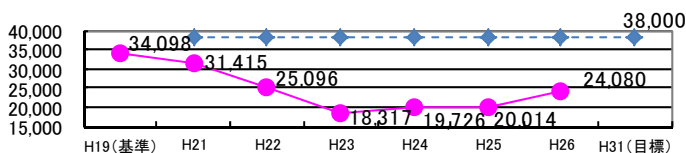
② 個別目標 1－2：豊かな心の育成



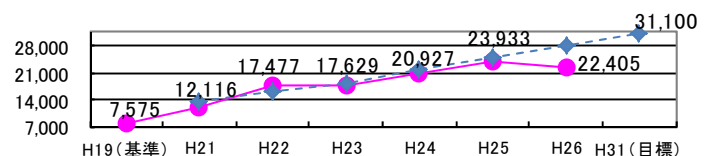
参考図5. 不登校生徒の復帰率 (%)



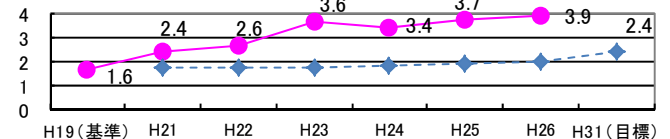
参考図7. 小学校図書館の児童1人当り貸出冊数 (冊)



参考図9. 鑑賞事業の入場者数 (人)



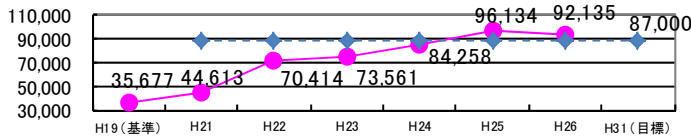
参考図6. 子どもの居場所づくり参加児童数 (人)



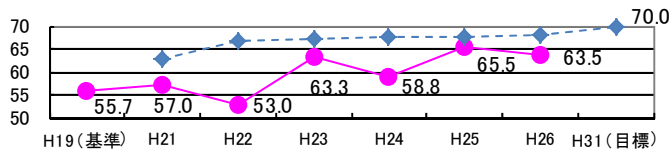
参考図8. 中学校図書館の生徒1人当り貸出冊数 (冊)

※実線は実績値。点線は目標値。

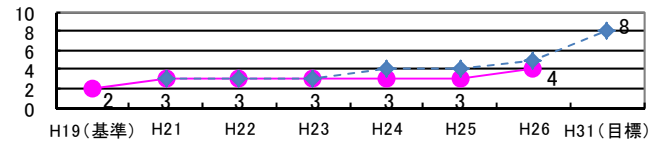
③ 個別目標１－３：健やかな体づくり



参考図１０．スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数（人）

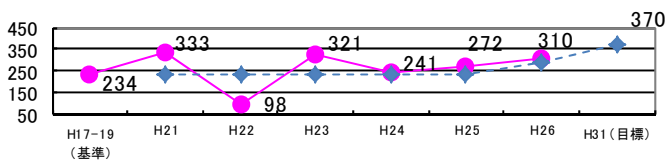


参考図１２．学校給食における地場産野菜の導入率（％）

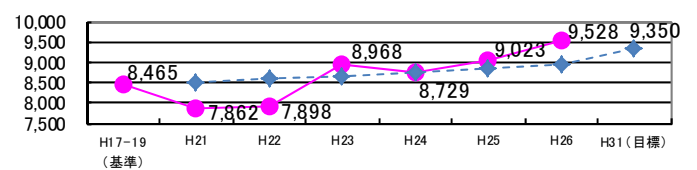


参考図１１．総合型地域スポーツクラブ設置数（か所）

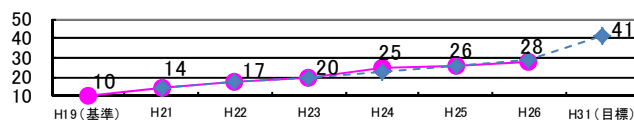
④ 個別目標１－４：人間を尊重し自然と共生する人づくり



参考図１３．UDに関する講座等への参加者数（人）

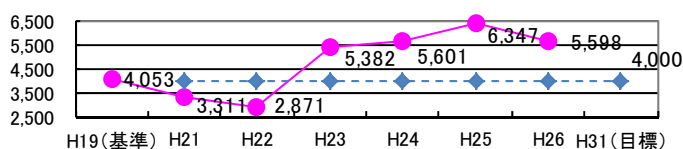


参考図１４．国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数（人）



参考図１５．環境にやさしい活動実践校数（校）

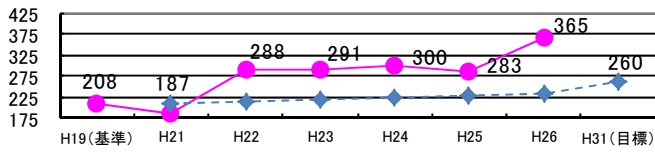
⑤ 個別目標２－１：ふるさとの理解の促進



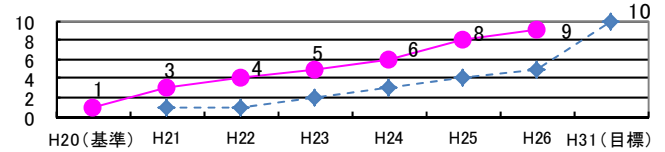
参考図１６．地域について学ぶ講座等への参加者数（人）

※実線は実績値。点線は目標値。

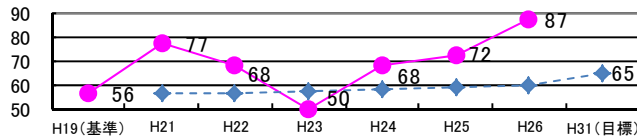
⑥ 個別目標２－２：きずなづくり・まちづくり



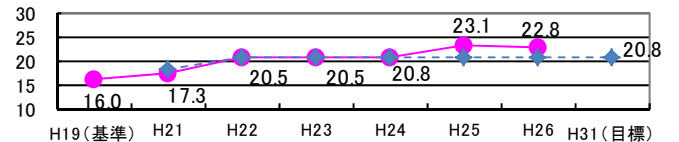
参考図 17. 青少年リーダー養成事業参加者数 (人)



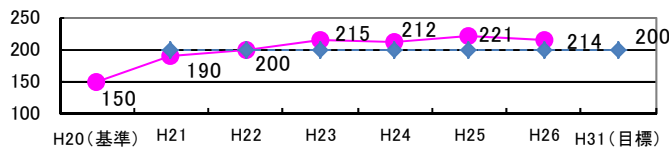
参考図 18. 学習成果の活用事例数 (件)



参考図 19. 発表・活動の場への参加団体数 (団体)

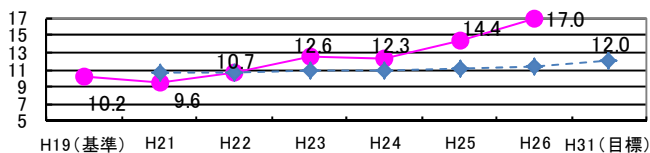


参考図 20. 各種スポーツ大会の観客数 (万人)

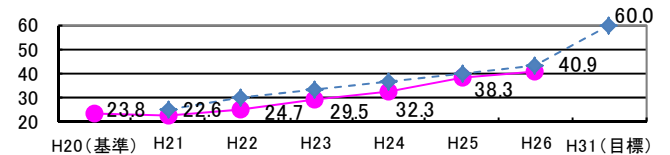


参考図 21. スポーツ合宿団体数 (団体)

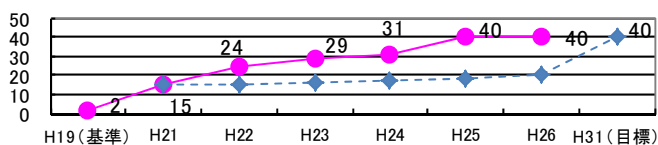
⑦ 基本方向１：学校・家庭・地域の連携



参考図 22. 子ども１人当たりの子育て支援センター等の利用回数 (回)



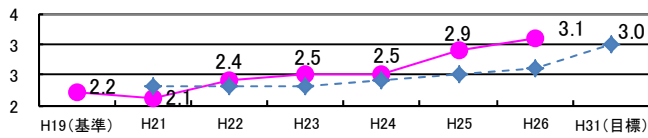
参考図 23. 子育てメール通信の利用率 (%)



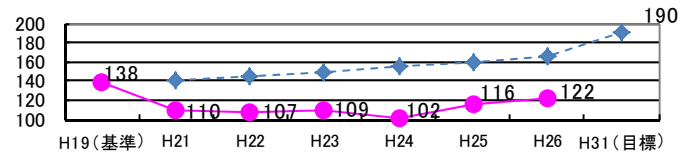
参考図 24. 学校支援ボランティアを活用した学校数 (校)

※実線は実績値。点線は目標値。

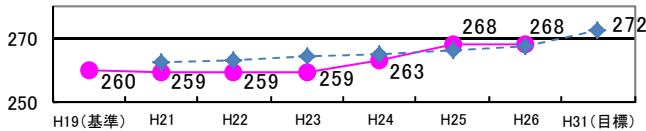
⑧ 基本方向２：教育を支える人材の育成



参考図25. 教職員1人当たりの研修受講回数（回）

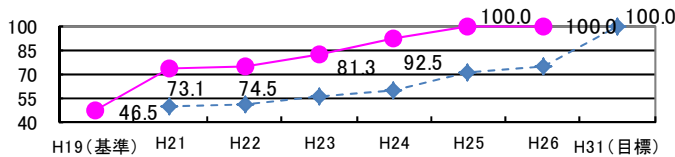


参考図26. 地域の指導者の登録者数（人）

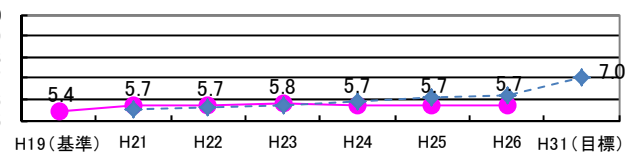


参考図27. ホームページで芸術・文化活動を
紹介する文化団体数（団体）

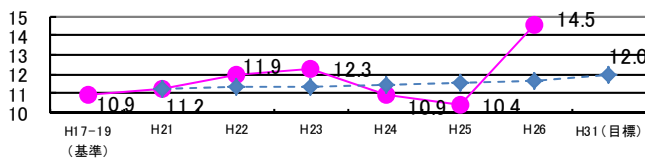
⑨ 基本方向３：教育環境の充実



参考図28. 小・中学校校舎の耐震化率（％）

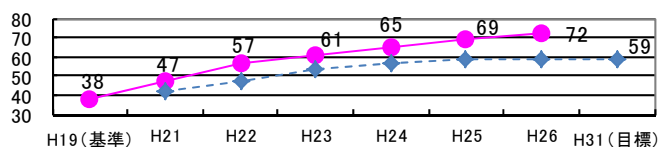


参考図29. 市民1人当たりの図書等の貸出点数
（点）



参考図30. 児童会館の入館者数（万人）

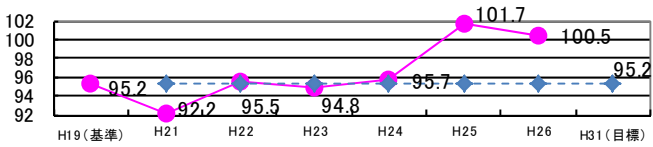
⑩ 基本方向４：教育機会の確保



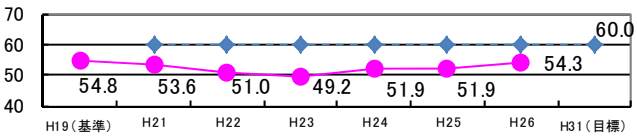
参考図31. 特別支援学級の設置数（学級）

※実線は実績値。点線は目標値。

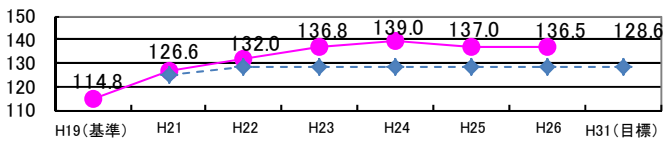
⑪ 基本方向5：よりよい教育のためのしくみづくり



参考図32. 社会教育施設の総利用者数 (万人)



参考図33. 文化施設の利用者数 (万人)



参考図34. スポーツ施設の利用者数 (万人)

○ 課題及び今後の方向性に対する平成26年度の取組み

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の取組み
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	○教員の意識改革による授業の改善や個々に応じたきめ細かい指導	○学校指導訪問での授業改善の指導、助言
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	○魅力ある講座の開催と広範な情報発信	○地域に根ざした親しみやすいテーマを設けるなど、幅広く多様な講座等を開講。また、市ホームページやSNSを活用した幅広い周知の実施
職業に関する教育・学習活動の推進	○発達段階に応じたキャリア教育の充実 ○南商業高校での検定3種目以上1級取得率維持のための丁寧な指導	○各小中学校ごとにキャリア教育の年間指導計画を作成し、発達段階に応じて実施。中学校では、職場体験学習を14校全てにおいて実施 ○南商業高校での検定3種目以上1級取得のための補習の実施
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	○情報モラルの醸成 ○有害情報排除などの啓発活動	○パソコン講座開催による情報モラルの醸成 ○帯広市ネット非行対策連絡会議・講演会、携帯電話販売店の立入調査、ネットパトロールによる有害情報排除などの啓発活動

② 豊かな心の育成

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の取組み
子どもの社会性の育成	○不登校に対する関係機関との連携や個別の対応など相談活動の充実 ○「子どもの居場所づくり事業」での地域のボランティアや NPO 法人と連携した継続的な事業の推進	○不登校に対する他機関と連携した相談・支援体制の充実。生徒指導アドバイザーのきめ細やかな対応、家庭訪問等の実施 ○地域のボランティア等の協力を得ながら、「子どもの居場所づくり事業」の実施

豊かな情操の育成と生きがいづくり	○学校図書館の蔵書等の整備や学校図書館活性化事業における担い手の専門性の向上 ○鑑賞機会の増加に繋がる企画内容の検討、実施	○児童生徒の興味を引く蔵書の整備 ○司書教諭や学校図書ボランティアを中心とした読み聞かせや朝読書、学校図書館の土曜開放の実施。市立図書館による「ぶっくーる便」や「学校図書館クリニック」の実施 ○鑑賞機会の増加に繋がるよう、関係団体等と連携した事業の実施
------------------	--	--

③ 健やかな体づくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 26 年度の取組み
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	○独自の体力・運動能力実態調査の継続実施による児童生徒の体力・運動能力の実態把握と改善の取組み ○スポーツ少年団の活動に対する支援方法の検討 ○「フードバレーとかちマラソン」の継続開催	○小中学校一校一実践による、各校の体力向上の取組みの実施 ○スポーツ少年団指導者育成活動、大会開催運営に対する補助の実施 ○「フードバレーとかちマラソン」(3 回目)の開催
食育の推進と学校給食の充実	○児童生徒が食に関する正しい知識や食習慣を身につけるための指導体制の充実、保護者・地域への啓発、教師の指導力向上を意識した組織的な取組み	○食育指導専門員による「食育出前講座」や調理員等による学校訪問などの実施 ○食育レシピ集や給食だよりなどによる家庭への啓発 ○「帯広らしい食育プログラム」の小中学校配布による教師の指導力向上

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 26 年度の取組み
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	○教育活動全体を通じての指導と意識啓発	○教育現場の人権意識の高揚をはかるため、いじめ問題についての教育相談講座の開催
グローバル化に対応した教育・学習活動の推進	○小中学校での外国人講師を効果的に活用した外国語活動の充実 ○南商業高校での英語指導助手の継続配置とマディソン市への派遣事業の実施	○外国人講師に対して日常的な打合せを行い、児童生徒に向けた効果的な指導法の研修実施 ○南商業高校での英語指導助手の継続配置とマディソン市への派遣事業の実施

環境に関する教育・学習活動の推進	○学校との連携や社会教育施設等が連携したプログラムの充実による帯広らしい環境教育の推進 ○環境にやさしい活動の促進やプログラム集、ホームページなどによる情報発信	○体験学習や出前講座など帯広らしい環境教育プログラムの充実と実施 ○環境にやさしい活動実践校の2校増やプログラム集、ホームページなどによる情報発信の継続
------------------	---	---

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

展開方策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の実施
子どものふるさと教育の推進	○体験学習等での事業目的の周知や外部講師の確保、自校独自プログラムの内容充実 ○学校と社会教育施設との連携した学習活動	○小中学校とともに児童生徒の実態や地域性に合わせて選択する体験プログラムのうち、独自のプログラムを実施する学校の増加 ○自然体験学習のうち「農業体験・酪農体験」については農政課を通じて訪問先の調整
地域に関する学習活動の推進	○柔軟で多種多様な講座が開催できるよう、生涯学習推進委員の高齢化に対応した世代交代	○講座等の指導者や運営ボランティアを次世代に継承していくため、講座の参加者の中から次の指導者になりうる人材への働きかけ

② きずなづくり・まちづくり

展開方策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の実施
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	○ボランティア活動に関わる人材の確保や技能や知識を習得できる研修機会の提供 ○若者の社会参画を促進するためのしくみづくり	○百年記念館における展示解説ボランティア養成講座の開催。足寄動物化石博物館、ひがし大雪自然館で研修会の実施 ○青少年団体のまちづくり参画への周知と、農業青年団体の食育イベントの実施をモデル事業として継続実施
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	○市民芸術祭等の発表の場に参加する団体数増加に向けた多くの文化団体との連携	○文化団体への「発表の場」参加の周知

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 26 年度の取組み
開かれた学校づくり	○新任学校評議員の研修会の開催や学校評価における学校関係者評価としての役割充実などの学校評議員制度の更なる活用	○新任学校評議員に向けた研修会の充実を図るとともに、「評議員通信」等の発行により更なる活用の促進
家庭教育への支援	○「帯広市子ども・子育て支援事業計画」の策定による子育て事業のさらなる充実	○「おびひろこども未来プラン」の施策を重点化・推進する計画として、「帯広市子ども・子育て支援事業計画」を策定
家庭や地域による教育支援の推進	○学校・家庭・地域が連携した教育支援推進のための成果と課題を踏まえた活動の充実	○活動が充実している学校支援地域本部のコーディネーターを講師としたコーディネーター研修会の実施

② 教育を支える人材の育成

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 26 年度の取組み
教員の人間力・指導力の向上	○教職員への生徒指導や学習指導に関する情報提供 ○学校と連携した計画的な研修受講の促進と教員ミドルリーダーの育成	○研修会、公開研究会の情報提供と参加への呼びかけ
地 域 人 材 の 発 掘・育成・活用	○地域の指導者の登録増加のための周知や広報活動 ○各文化団体の課題の把握と適切な支援の検討 ○スピードスケートサポーターバンク制度の周知	○地域の指導者の登録増加のために、市ホームページや SNS を活用し、幅広く周知 ○ホームページで紹介する文化団体の現状の把握 ○スピードスケートサポーターバンク制度について、各種事業に参加していただいた指導者、及び学校へ周知

③ 教育環境の充実

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成 26 年度の取組み
学校教育の環境整備	○学校施設の老朽化対策として、改築や長寿命化改修を視野に、抜本的な改善の検討	○ボイラー改修工事（中学校 1 校）など、優先度を考慮した学校施設の老朽化対策と計画的な予防保全の推進

社会教育の環境整備	○社会教育施設・設備の計画的な整備 や老朽化した展示物等の更新	○社会教育施設における計画的な施設 設備修繕等の老朽化対策や展示物の充 実
保育・体験活動の 環境整備	○保育施設の耐震性の確保と老朽化施 設の計画的な維持管理	○児童保育センターの改築（2施設）、 移転改修（1施設）。ことぶき保育所外 壁・屋根等修繕

④ 教育機会の確保

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の実施
就学・進学支援	○生活保護基準の引き下げに対する適 切な基準・手法等の検討 ○通学路の改善が必要な箇所に対する 方策の検討 ○適正な高校間口確保に向けた取組み	○生活保護基準の引き下げによる影響 が出ないよう、引き下げ前の基準を適 用し、就学が困難な児童生徒の保護者 に対し経済的な支援を実施 ○通学路の安全確保に向けた体制の構 築やプログラムの策定について検討 ○高校間口の確保に向けた情報収集
健やかな発達の 支援	○児童生徒の教育的ニーズにあった支 援体制の充実とそれを支える人材の確 保 ○知的学級の自校化の推進と様々な障 害種別に対応した学級開設の検討	○特別支援教育補助員の増員（2人） ○知的学級（3校）、難聴学級（1校）、 病弱・身体虚弱学級（2校）の新設

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

展 開 方 策	昨年度の課題及び今後の方向性	課題に対する平成26年度の実施
魅力ある学校づ くりの推進	○学校評価の充実と評価結果を踏まえ た学校運営の改善 ○小規模特認校制度の周知と効果的な 実施方法の検討	○学校評価の項目を精査することで効 果的な学校運営に資する評価の実施 ○リーフレット、広報、OCTV、ポス ター等による小規模特認校制度の周知
学校教育のしく みの工夫改善	○「帯広エリア・ファミリー構想」の 実効性ある連携体制の充実	○幼保小中連携エリア実践交流会の開 催
社会教育施設の 利用の促進	○文化施設の利用者の増加に向けた充 実した情報提供 ○社会教育施設連携などによる魅力あ る学習機会の提供	○ホームページや SNS 等を使用した 情報発信の充実 ○「よりどりみどりがおかフェスタ！」 など、4館（百年記念館、図書館、動 物園、児童会館）による連携事業を多 く開催

地域の実情に応じた教育行政の推進	○教育行政に関する情報提供の充実 ○教育懇談会のテーマ設定や開催時期などの検討	○教育委員会会議会議録や教育懇談会の概要など、教育行政に関する情報を引き続きホームページで発信 ○教育懇談会では、テーマを特に設けずに市民との意見交換を実施
------------------	--	---